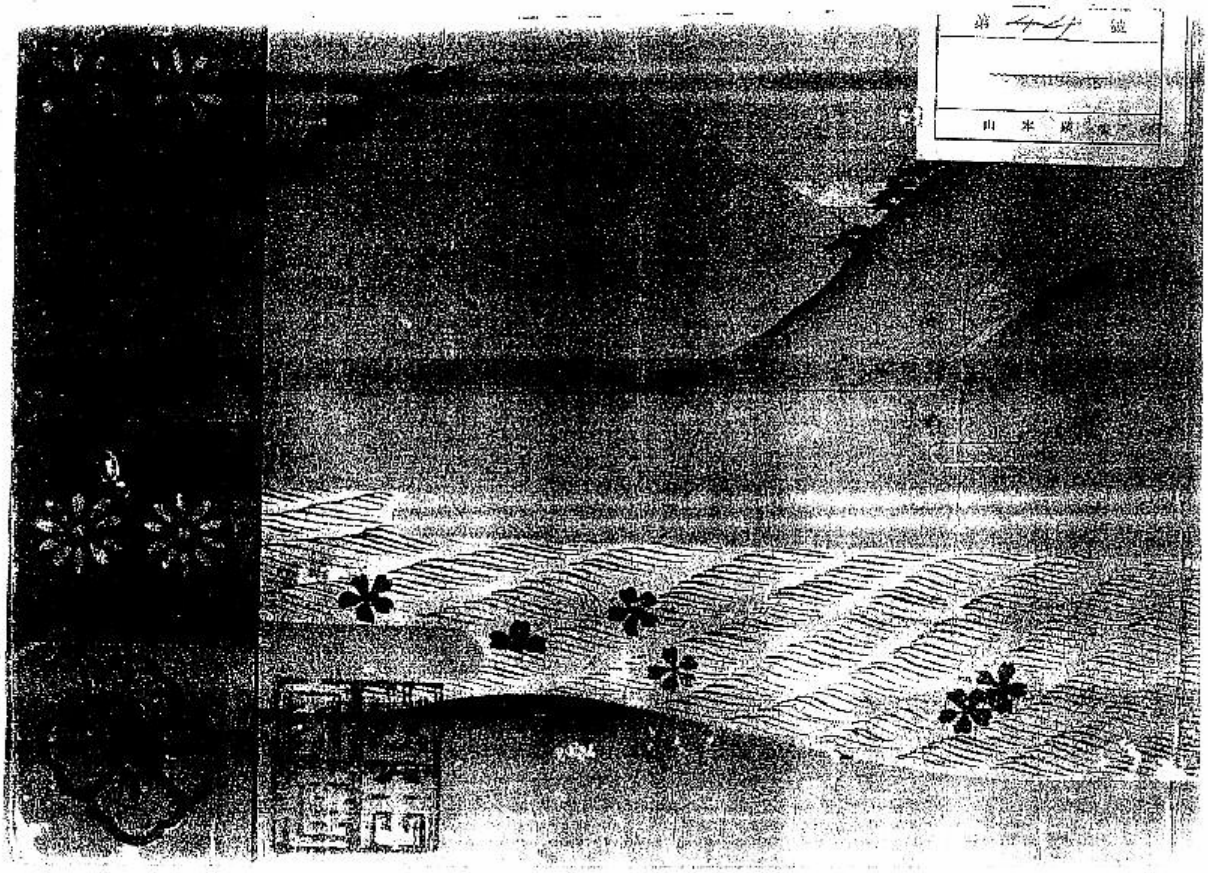
平成十二年度　越谷市文化財講習会

越谷の張り子玩具

講師　高崎　力　（越谷市文化財調査委員）

日時　平成十三年三月三日　午後二時より

会場　中央市民会館



て黒糸で頭髪を區別して長い方を女子に短かい者を男に而してうしろに金紙で屏風樣の者を張へて蒸籠風に怒こ鉄がかいてあるなど通り雛さいふ可きである。

㉟三河雛雛、形體は室町雛に似て袖をはつて粗雑に出來てゐる面白い者である但男の方は狩衣樣の物をきてゐる處が特色である昔の形代風に簡句の折開近の神社佛閣に納める者である。

㊱古代芋雛、形の上から名づけた者で享保雛そつくりである丸くづんぐりさした處に型雛がある芋の樣だと云ふ處から出た者であらう。

㊲伏見焼雛、伏見雛は京都伏見の里にて造り出さる處伏見人形の名を以て世に聞えてゐる此處で作られる土製人形の雛を云ふのである。

㊳深草雛　伏見雛と略同じ物京都深草の里より出る處から此の名がある土製高雛古色のある者である。

㊴直衣雛、衣裳上の名稱である粗製なる處より察するに在郷にて作られたる物であらう。

㊵狩衣雛　これも服裝の上から出た名稱で德川十一代將軍つまり第政後の製作である。

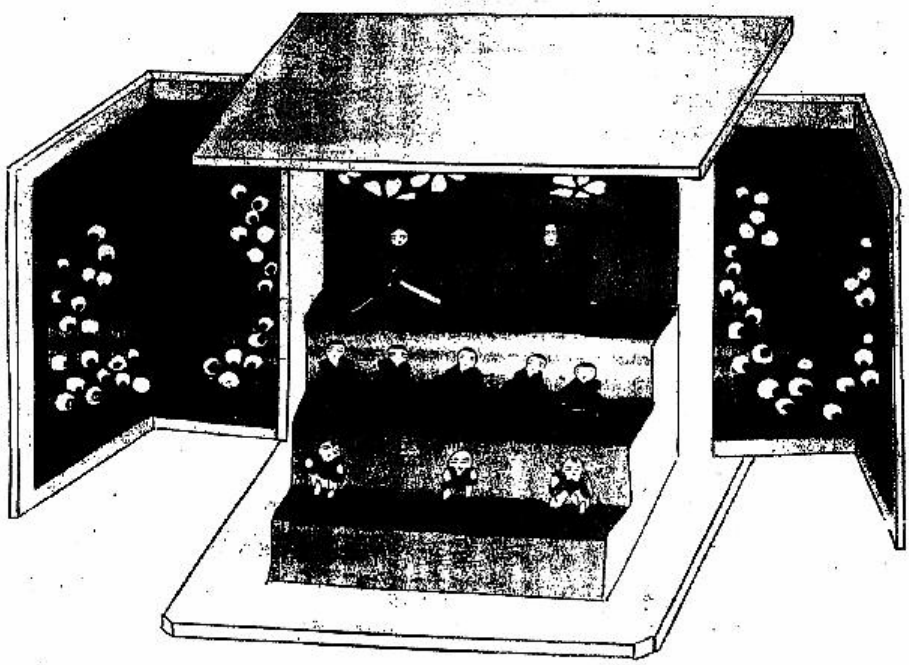
㊶折紙雛　紙を折つて雛の形を出しこれに彩色して樂しむ物恰度今日の幼稚園に於ける手工折紙と同じ様な趣きを持つてゐるものである。

㊷姫瓜雛　姫瓜は淡名を金魚蛋と稱し形鶯の卵に似たり元祿の前後女兒これを雛につくりて平日の翫物としたさいはれてゐる又摂津住吉郡遠里小野にて毎年八月朔日草の實にて人の形を作り女子これを雛とよんで樂しむと云ふ事である。

㊸臍雛　古製である男女相抱いて一體をなしてゐる物何れは德川中期の好事者に由つて考案せられたる物なる可く珍種と云ふ可き者である。

㊹熊ヶ谷雛　埼玉縣熊ヶ谷附近から出る物を稱する此地は雛人形の製作が盛んで德川期には可成に産出してゐたのである現今でも製造業が多數居をしめてゐる。

㊺越ヶ谷段雛　同じ越ヶ谷の製である四五寸の箱の中に内裏五人雛三人仕丁さいつた樣な小人形を一まとめにして作りあげた極めて雛味ある者で今日でも稀には殘つてゐる。



越の谷假雛　現寸大

大正四年十二月五日印刷
大正四年十二月十三日發行

編輯主任　久保田米僊

編輯兼筆者　西澤笛畝

發行兼印刷者　京都市上京區寺町二條南十九番戸　山田直三郎

發賣所　京都市寺町通二條南　美術書肆　芸艸堂

不許複製

清水晴風翁著畫
うゑゑの友　彩色摺　六冊
天沼翹村先生著
玩具之話　挿畫　壹冊

❹ 羽衣雛　これも服裝の上から出た名前で德川十一代將軍つまり寛政後の製作である。

❺ 折紙雛　紙を折つて雛の形を出しこれに彩色して樂しむ物倍度今日の幼稚園に於ける手工折紙と同じ樣な趣きを持つてゐるものである。

❻ 瓠瓜雛　瓠瓜は滿名を金鶯蛋と稱し形鶯の卵に似たり元祿の前後女兒これを雛につくりて平日の翫物としたといはれてゐる又攝津住吉郡遠黑小野にて毎年八月朔日草の實にて人の形を作り女子これを雛ごとんで樂しむと云ふ事である。

❼ 睡雛　古製である男女相抱いて一體をなしてゐる物何れは德川中期の好事者に由つて考案せられたる物なる可く珍種と云ふ可き者である。

❽ 越ケ谷雛　埼玉縣越ケ谷附近から出る物を稱する此地は雛人形の製作が盛んで德川期には可成に產出してゐたのであ現今でも製造業が多數居をしめてゐる。

❾ 越ケ谷殿雛　同じ越ケ谷の製である四五寸の箱の中に內裏五人囃三人仕丁といつた樣な小人形を一まとめにして作りあげた極めて雜味ある者で今日でも稀には殘つてゐる。

❿ 七澤屋芥子雛　一段の內に內裏雛五人囃官女隨人三人仕丁なんでも豆の樣に細工した者で婦女子には殊更によろこばれる者である七澤屋は池の端(下谷區)にあつた雛人形雛道具を賣る有名な家である。(口繪第二十圖參照)

⓫ 御部屋雛　御部屋雛は幕府の頃留侯方奧向の女中達が飾る雛である品品は極めて精巧で前出の芥子雛と同じ物である御部屋雛の名稱は御殿向御部屋方の愛でる處から出てゐるのである。

⓬ 稚兒雛　これは愛らしき子供の男女を雛に見立てゝ賣り出せる者にして專に御所人形の製作法に則り高雅にしてほゝゑまれる者である。

⓭ 淺草雛　親之(福島性)雛の名もある製作者の號をもつた者である淺草雛に似て木彫彩色の優美な物である。

⓮ 堤雛　仙臺市外堤町で作る所の土人形を堤人形と稱し伏見雛に似て土俗玩具としても愛せらるゝもの其の中の雛を製したる者を云ふのである。

昭和十八年六月十五日印刷納本
昭和十八年六月二十日發行
昭和十八年六月二十五日發行
1500部
【定價參圓】
著者　西尾藤一郎
京都市中京區寺町通二條南入
發行者　大田勝次郎
京都市中京區寺町通二條南入
印刷者　川勝二
京都市中京區二條通鉄砲町東入
發行所　株式會社大雅堂
京都市中京區寺町通二條南入
(日本出版配給株式會社)
(本・雜・用・紙)

雛人形の製作々業は分業であつて、頭から胴から、一切の附屬品を單獨で仕上げるのではない。產地を初め、頭、胴、其他附屬品には各專門的の技能を有する工作者があつて、之れを取纏めるのは主として卸問屋が從事してゐるのである。玆に、卸問並製作者の姓名を調査の上、掲載した事は後世に亟り現在を省る者が、昭和年代の雛人形が如何に盛觀を極めたかを知る上から、決して徒勞でないと信じたからである。たゞ關東地方が特に微細に亘つてゐる點は、同地方が雛人形の生產地として、能率、產額共に全國に冠たるものゝある所以に外ならないのである。

卸商の部

東京市淺草區茅町二丁目十一	久月總本店	橋山正三
同　淺草區茅町一丁目十六	吉徳（大光作）	山田徳兵衛
同　淺草區南元町十五	明月	木原善太郎
同　淺草區瓦若町一丁目二十二	成平	成舞平兵衛
同　淺草區淺草公園仲見世仁王門前	武藏屋長山	鈴田小一郎
同　淺草區北元町二	菱玉	渋田安兵衛
同　淺草區小島町七	玉泉	加藤新八
同　淺草區榮久町七十一		鷲津仲助
同　淺草區藤町五十一	年々寶守一光	守千吉
同　淺草區神吉町二十五		大野博庭

同　淺草區馬道町五丁目十八	新月	橋川英男
同　淺草區馬道町五丁目四		水村新藏
同　淺草區榮久町七十二	松月	高野强松
同　淺草區上平右衛門町七		服部順一
同　日本橋區本石町三丁目一	玉舟	市原長太郎
同　日本橋區本石町三丁目一	玉貞	堀尾貞藏
同　日本橋區本石町三丁目一	玉翁	渡邊芳次郎
同　日本橋區馬喰町三十七		平井三造
同　芝區三田二丁目十三	玉鶴	高橋愛吉
同　下谷區坂本町四丁目二十七	久月	滑水治郎吉
同　下谷區御徒町二丁目十九		金林鎭太郎
同　下谷區御徒町一丁目五十六		湯本長太郎
同　下谷區南稻荷町八十	玉春	鈴木親次郎
同　下谷區中根岸四十五	鶴屋	鈴木美太郎

同　神田區柳原河岸十一號地	玉仙	長谷川美平
同　神田區金澤町十一	好盛堂	萩原源吾
同　神田區柳屋町三十一	花屋	鈴木庫之
同　牛込區新小川町二丁目八		松倉龜四郎
同　小石川區小日向町五十六		堀內徳兵衛
同　四谷區麴町十三丁目二十三	秀玉	三好幸次郎
東京府荏原郡品川町北品川宿七十六		水谷源藏
同　豐多摩郡代々幡町代々木新町三十三	寶月	林茂藏
同　北豐島郡日暮里町元金杉六百三十	吾妻齋	稻村太郎吉
（雛道具）東京市日本橋區江戸橋一丁目七	會津屋	岡田利吉
（同）　同　小石川區金富町十六		竹中藤吉
（同）　同　下谷區萬年町一丁目四十		齋藤錦三郎
（同）　同　本所區厩橋一丁目十五	鶴蒔屋	小田川祥太郎
埼玉縣南埼玉郡岩槻町丹過		三枝寶國

同　南埼玉郡岩槻町市宿　丸　芳藏
同　南埼玉郡岩槻町太田　戸塚岩吉
同　南埼玉郡岩槻町久保宿　井野德次郎
同　南埼玉郡越ヶ谷町　會田佐右衛門
同　北足立郡鴻巣町　關口繁吉
同　入間郡松井村下新井　倉片吉之助
栃木縣安蘇郡佐野町　橋本平八郎
同　安蘇郡佐野町　田村時三郎
同　安蘇郡佐野町　藤沼留吉
水戸市上市大工町　小林治郎吉
同　上市谷中一町目　古田幸三郎
同　上市馬口勞町五町目　和田鮎之介
濱松市肴町　光月　神原良平
名古屋市西區玉屋町　岩田藤由

同　西區和泉町　大西嘉七
同　中區門前町　井上市之助
同　中區八百屋町　岩田分店
同　東區伊勢町一丁目　河村治助
同　東區鍋屋町　佐分太吉
同　東區石町　水野錄三郎
京都市土手町正面南　中山庄三郎
同　四條場町　大木人形店
同　四條御旅町　並河人形店
同　四條麩屋町　奥山彌三郎
同　四條富小路　田中彌兵衛
同　四條麩屋町　橋本幸三郎
同　四條麩屋町　川島人形店
同　五條瓦町　高田人形店

製作者の部

刷師

東京市淺草區寺町五十一　年々寺守一光　守千吉
同　淺草區北元町二　蓬玉　津田安兵衛
同　淺草區猿屋町十一　馬場久七
同　淺草區上平右衛門町七　服部順一
同　淺草區地方今戸町二十二　小澤仙太郎
同　淺草區田中町百一　豊山　中村茂兵衛
同　淺草區寺町四十六　中根佐市
同　淺草區寺町二十五　東庄寺光月　渡谷光

同　淺草區寺町五十一　黑岩茂
同　淺草區新鳥寺町十七　墨岩輝雄
同　淺草區駒形町六十三　木下亮輔
同　淺草區玉姫町百三十四　松井國三
同　淺草區聖天横町六　永玉　古市清三郎
同　日本橋區本石町三丁目一　玉舟　市原長太郎
同　日本橋區十軒店町　永徳齋
同　下谷區龍泉寺町三百六十三　玉寶　馬場治郎吉
同　下谷區西町三　昭玉　松崎義雄
同　四谷區傳馬町三丁目七　小島眞三
同　牛込區新小川町二丁目八　松倉龜四郎
同　小石川區宮下町二十五　齋藤歌子
同　本所區石原町六十四　飯塚由藏
東京府豐島郡成增驛前　大澤定吉

同　荏原郡戸越百七十六　玉彩　高橋伊三郎
同　北多摩郡府中町新宿町　光忠齋愛月　海老澤慶造
同　豊多摩郡野方町新井百四十八　會田市太郎
同　北豊島郡板橋町金井窪三百九十六　池本啓次郎
同　北豊島郡尾久町下尾久四十六　厚田勘次郎
同　北豊島郡尾久町上尾久千八十五　山谷關太郎
同　北豊島郡尾久町上尾久千三百六十二　河井喜惣治
同　北豊島郡尾久町上尾久二千七百九十五　小川欣三
同　北豊島郡尾久町上尾久二千九百十五　鈴木吉太郎
同　北豊島郡尾久町上尾久三千百三十四　大澤末吉
同　北豊島郡尾久町上尾久千五百二十　鶴岡優好
同　北豊島郡尾久町上尾久千百二十九　上原藤作
同　北豊島郡尾久町上尾久二千四百二十三　山際通弘
同　北豊島郡尾久町上尾久二千九百三十三　杉田四郎

同　北豊島郡尾久町稻形二百三十六　水元末之助
同　北豊島郡尾久町稻形三百六　高橋廣吉
同　北豊島郡尾久町稻形三百三十一　高橋仙藏
同　北豊島郡北千住町二丁目三十九　小田猛夫
同　北豊島郡三河島町七百九十二　苗木貫治
同　北豊島郡三河島町蓮田百三十四　武井祐次郎
埼玉縣南埼玉郡岩槻町加倉　東照齋松月　平野專四郎
同　南埼玉郡岩槻町新町　東芳齋春月　蓬山芳雄
同　南埼玉郡岩槻町市宿　岩月齋朝玉　森田新太郎
同　南埼玉郡岩槻町久保宿　鈴木由藏
同　南埼玉郡岩槻町久保宿　高橋耕作
同　南埼玉郡岩槻町太田　吉田阿久太郎
同　南埼玉郡岩槻町太田　福澤吉之助
同　南埼玉郡岩槻町林道　重田孝

同　南埼玉郡岩槻町林道　平野庫之助
同　南埼玉郡大澤町　御武內愛之助
同　南埼玉郡大澤町　須藤壽三郎
同　南埼玉郡大澤町　須藤貞一
同　南埼玉郡大澤町　須藤貞次郎
同　南埼玉郡大澤町　野澤愛之助
同　南埼玉郡大澤町　金原卯之助
同　南埼玉郡大澤町　平野市右衛門
同　南埼玉郡大澤町　池澤鐵次
同　南埼玉郡越ヶ谷町　會田佐右衛門
同　南埼玉郡越ヶ谷町　片山卯之助
同　南埼玉郡越ヶ谷町　鎌倉勝藏
同　南埼玉郡越ヶ谷町　岩淵龜次郎
同　南埼玉郡越ヶ谷町　島田倉吉

同　南埼玉郡越ヶ谷町　增田嘉兵衛
同　南埼玉郡越ヶ谷町　會田幸助
同　南埼玉郡越ヶ谷町　會田常藏
同　南埼玉郡大袋町大通　栗原初太郎
同　南埼玉郡大袋町大通　小林忠左
同　南埼玉郡大袋三ノ宮　金子鶴吉
同　北足立郡鴻巣町　關口磯五郎
同　北足立郡鴻巣町　關口繁吉
同　北足立郡鴻巣町　關口政吉
同　北足立郡鴻巣町　荒井三五郎
同　北足立郡鴻巣町　荒井德次郎
同　北足立郡鴻巣町　永光齋春月　內山光三
同　入間郡所澤町御幸町　澤谷仙造
同　入間郡所澤町日吉町　山下武治

同　入間郡入間川町　島崎泰造
(柳雄)東京府北豐島郡日暮里町金杉百四十九　吉岡米八
(同)同　北豐島郡日暮里町谷中本七百二十七　竹中幸輔
(同)栃木縣安蘇郡佐野町　松本藤平

顯師

東京府北豐島郡巣鴨町上駒込百九十五　玉秀　澤栗長五郎
東京市日本橋區室町三丁目七　同　阿久利
同　淺草區松葉町三十五　寄舟　青木岩太郎
同　本郷區湯島三組町二十九　東山　野口光彦
同　本所區向島錦地　成川平吉
東京府北豐島郡西巣鴨町宮仲二千三十九　玉洋　藤井鹿三郎

同　北豐島郡尾久町上尾久二千九百三十三　板倉豊三
同　北豐島郡尾久町上尾久二千五百五十四　藤井正一
同　北豐島郡三河町蓮田百六十二　豊田源次郎
同　北豐島郡千住町字千住一丁目百八十　堀尾幸山
同　南葛飾郡吾嬬町須崎二百九十　光洲　阿久津德重
同　荏原郡戸越銀座通九百四十五　永耀斎光遠　兒玉幸逸
同　八丈島大賀郷村　海州　吉野錄之助
埼玉縣南埼玉郡岩槻町新町　藤塚秀之助
同　南埼玉郡岩槻町新町　大竹芳藏
同　南埼玉郡岩槻町市宿　秋葉村吉
同　南埼玉郡岩槻町市宿　吉田清治
同　南埼玉郡岩槻町丹過　增岡八老
同　南埼玉郡岩槻町丹過　泰山淺次郎
同　南埼玉郡岩槻町丹過　倉持藏吉

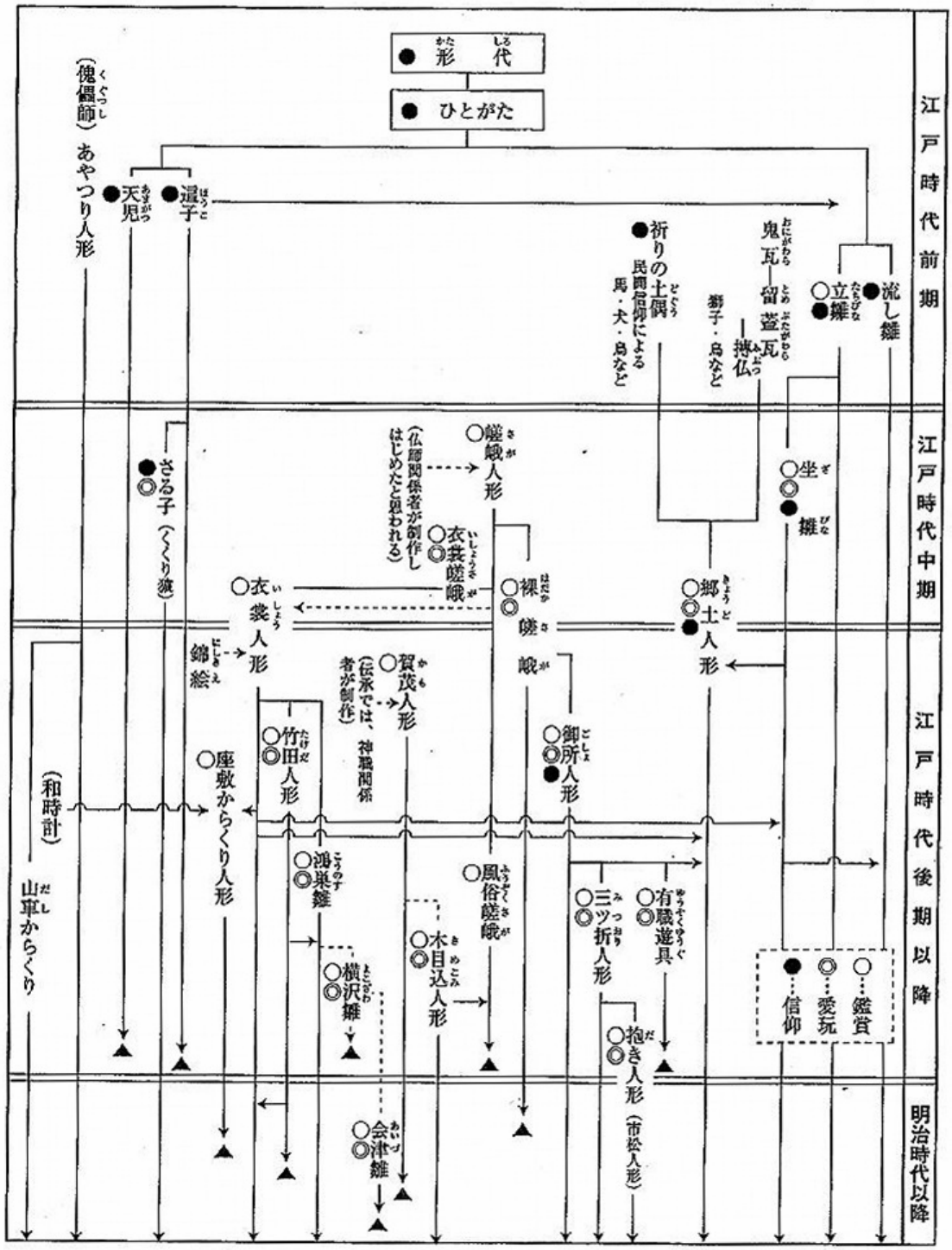
同　南埼玉郡岩槻町大工町　白倉龜吉
同　南埼玉郡岩槻町大工町　熊ケ谷浦吉
同　南埼玉郡岩槻町大工町　國部榮吉
同　南埼玉郡岩槻町大工町　木村作藏
同　南埼玉郡岩槻町久保宿　關根子之助
同　南埼玉郡岩槻町久保宿　若谷林之助
同　南埼玉郡岩槻町久保宿　齋藤音松
同　南埼玉郡岩槻町久保宿　岩築勇吉
同　南埼玉郡岩槻町濱江　鈴木定次郎
同　南埼玉郡岩槻町濱江　西田喜榮
同　南埼玉郡岩槻町濱江　田島儀一郎
同　南埼玉郡岩槻町濱江　河野市郎
同　南埼玉郡岩槻町濱江　神田榮吉
同　南埼玉郡岩槻町出口　小川清助

同　南埼玉郡岩槻町出口　新井忠一郎
同　南埼玉郡岩槻町太田　星野平八郎
同　南埼玉郡岩槻町太田　齋藤喜吉
同　南埼玉郡岩槻町太田　吉田光三
同　南埼玉郡岩槻町太田　井野伊之吉
同　南埼玉郡岩槻町太田　栗原勇次郎
同　南埼玉郡岩槻町太田　田口源藏
同　南埼玉郡岩槻町太田　屋野三郎
同　南埼玉郡岩槻町太田　石垣梅太郎
同　南埼玉郡岩槻町大澤町　金子仲藏
同　南埼玉郡岩槻町大澤町　中村梅吉

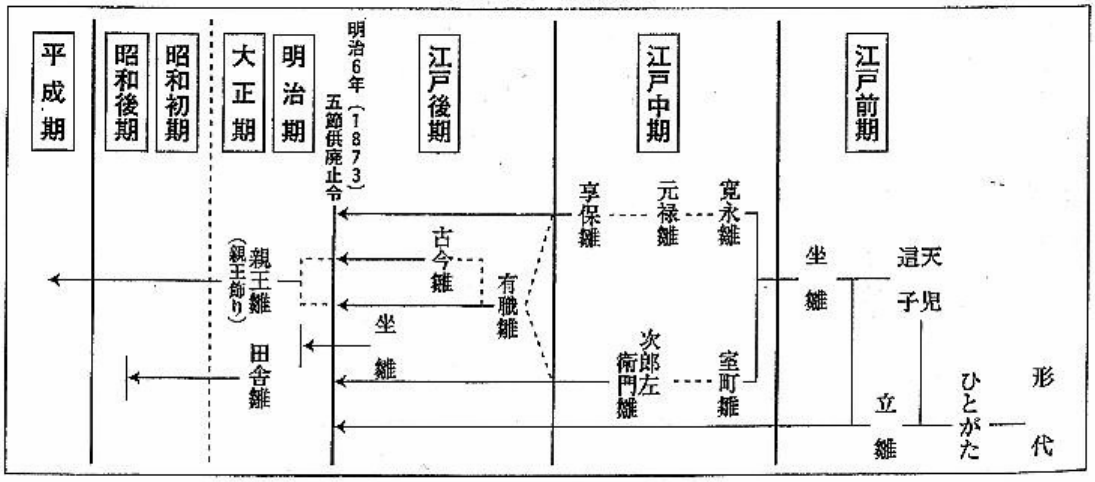
日本雜錄考（復刻版）
原本初版発行　昭和六年一月二十五日
復刻版初版発行　昭和五十二年三月二十二日
著者　宮内省式部官　太郎
原本発行所　雄山閣
復刻版発行所　和泉書院

日本の古人形系統図

日本の古人形には、深い精神性が存在します。仏教以前の精神が現われるもので、西洋人形や玩具とは異なります。現在、私たちが見ることの出来る人形（にんぎょう）は、江戸時代、それも中期以降のものが大半を占めます。これらを、その使われはじめた時代、相互の影響、さらに用途やその人形の持つ性格などによって図示すると、おおよそ次のようになります。



雛人形の系統図



各雛人形の特徴

立雛……雛人形の成立過程でもっとも古い形と思われます。もともとは紙雛で、頭も紙製で藁を束ねて芯としていました。それが進化して、裂で覆った頭や木彫りのものとなり、さらに共冠などに発展しました。また、次郎左衛門型の頭を用いるようになると、金箔の裂地や紙地の最高級品を使うようになり、宮廷ばかりか大名家にまで普及していきました。

坐雛……雛人形は、立雛とともに坐雛が発生したと思われますが、伝世品は見当りません。江戸後期になると、袷着人形が節供の贈り物として用いられるようになり、袷雛を生まれた赤ん坊に与える風習が出来上がりました。それで遊んだ後は、川に返して穢れを祓いました。また、関東の農村では、坐雛を農作の縁起物として雑嚢に飾っています。

室町雛……室町雛は、元禄期（1688～1704）以降の宮廷文化の中で作られたもので、時代名や地名とは関係のない呼称です。小振りで品格のある姿は、公家文化とは一味も二味も違いがあります。面相は、天児の顔から生まれたものです。

次郎左衛門雛……次郎左衛門雛は、宝暦年間（1751～64）に京の人形師・雛屋次郎左衛門によって作られました。顔は丸く、引目鉤鼻なのが特徴で、このデザインが公家や大名にもてはやされました。はじめは束帯姿のものだけでしたが、立雛などさまざまな姿でも制作され、庶民にまで浸透しましたが、明治六年（1873）の五節供廃止令により廃れてしまいました。

寛永雛……寛永雛の成立時期は、寛永期（1624～44）ではなく、元禄期（1688～1704）以降と思われますが、定かではありません。寛永雛は、小振りで、手を袖口の中でつっぱっていて指先は見えません。男雛は共冠になっています。現在、寛永雛と称されるものは、洗練されたデザインになっています。

元禄雛……元禄雛は基本形は寛永雛と同様ですが、男雛は共冠で手足がつけられています。女雛は裳の膝頭部分と打掛けに綿を多く入れ、全体のスタイルが三角形になっています。

享保雛……寛永雛や元禄雛を大型化して、庶民に普及したものが、町雛に分類され、享保雛と称されました。男雛は束帯姿に似た装束で、女雛は五つ衣・唐衣・裳などの姿をして、袴には綿を入れてふっくら見せています。また、女雛は大きな天冠を被り、檜扇を持ち、男雛は太刀を差して笏を持っています。サイズは大きいもので80cm以上のものもあり、豪華絢爛に仕上がっています。

有職雛……有職雛は、宝暦・明和年間（1751～1772）頃に公家の装束を正しく考証して、衣紋道の司家、山科家・高倉家の認定のもとに作られました。束帯のほか、直衣・小直衣・狩衣など、公家の姿を忠実に復元しています。

古今雛……リアルな姿をした有職雛の影響を受けて、町雛として生まれたのが古今雛です。明和年間（1764～72）に江戸池端大槍屋が十軒店の原舟月に作らせて売りはじめたといわれていますが、京都の雛屋が有職雛の影響で新しく開発した町雛をさらに手直しして作ったものとも考えられます。容貌も写実的で、現代の雛のルーツといえるでしょう。

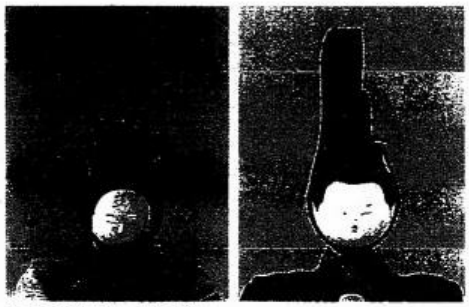
雛人形の顔

江戸中期に制作された坐雛の顔には、二つの流れがあると考えられます。一つは、天児（あまがつ）の頭（かしら）の流れを持つ丸顔のもので、もう一つは、冠と一体になっている頭（共冠）で円筒形（面長）のものです。

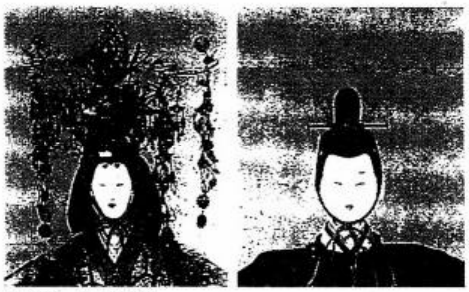
土を両手で捏（こ）ねると丸形になります。それを左右に動かすと円筒になります。雛の顔の移り変わりもこれと同じことがいえます。

つまり、円形が上手になったものが、引目鉤鼻の「次郎左衛門雛」となります。この次郎左衛門型の雛は、宮廷・公家・武家が中心となって用いました。一方、町雛は、共冠型のほうを多く用いました。その代表的なものが、豪華華麗で、袴に綿などを入れて大きく見せた「享保（きょうほ）雛」です。

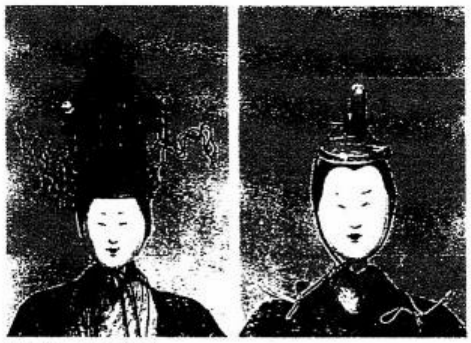
また、後桜町天皇の時代に「有職雛」が生まれ、顔がリアルになりました。この影響を受けて「古今雛」が生まれ、顔がハンサムになり、大流行をもたらしました。しかし、次郎左衛門雛や享保雛の流行も幕末期で終わりました。明治後期～大正・昭和期にかけて、庶民が豊かになるにしたがい、雛祭りも派手になり、雛の顔も多様な形になっていきました。



次郎左衛門雛　江戸後期



古今雛　江戸末期



享保雛　江戸末期

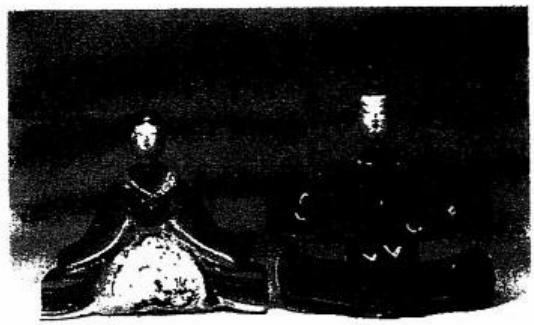
ハンサムな親王雛　大正～昭和期

素朴な味わい
土雛

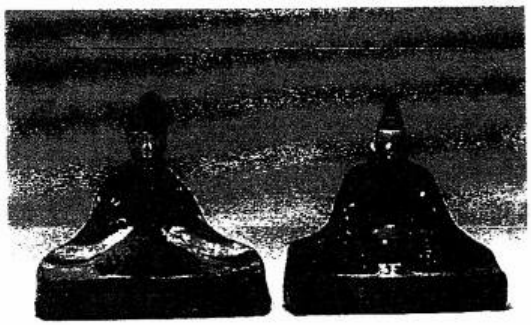
三月三日の雛祭りが、女児のお祭りとして日本国内に浸透したのは、武家や農家の副業として、土雛の生産が容易に出来たことがあげられます。

江戸期の東北地方の土人形は、享保雛などを写したものもあり、ローカルな味わいを醸し出しています。

土雛「国府人形」(愛知県豊橋市)　昭和初期



土雛「堤人形」(宮城県仙台市)　江戸末期



土雛「犬山人形」(愛知県犬山市)　明治～大正期

土雛「葛畑人形」(兵庫県)　昭和初期

土雛「花巻人形」(岩手県花巻市)　江戸末期

土雛「天草人形」(熊本県)　昭和初期

大澤の張子　達磨以外の張子玩具として尚大澤町の荻野徳次郎は兎、招猫、犬張子等の傑作を四新井に出してゐたさうであるが、大正十三年度後全く廢絶し、木型は船渡の松崎新吉に讓渡されたといふから船渡に於て再生するかもしれないと見られてゐる。

大戸第六天の起上りと面　川通村大戸の第六天門前の實物として出される新案特許の起上りに天狗と狐とがある。天狗は大小二種あり大は達磨と同型で唯顔を天狗の面に變へただけの品だが、小は顔を省略して頭ばかりが起上るのでこの方が遙かに面白い。狐もその型で顔だけが赤土るのだがいづれも頭に紐を通す處がついて居り、畑に吊しておくと瓜を盜まれない、などは稚氣があつて上出來である。面は極めて小型の天狗と烏天狗とが組で、出來は上乘である。又狐は起上りと全く同一のものを用ひてゐる。

越ヶ谷　吉澤玉郎氏提供特許品　松岡　勝吉

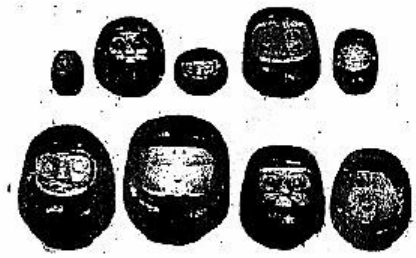
大體達磨市に多く顔を出す達磨は以上に盡きるが作者は尚更らに多々あり、作風も越ヶ谷系として大同小異であるから詳述の煩を避けて單に名を連ねるに止めておく。

越ヶ谷の張子

五圓　大竹　荻　鳥（頭子徑九寸五分）　鈴山

驚代	南埼玉郡大場町在驚代	高田　一郎
大房	同　火袋村大房	荻野　長吉
大里	同　大袋村大里	山岡久次郎
	同	中村勝次郎
大道	同　大袋村大道	川島　又藏
大場	同　武蔵村大場	荻原長次郎
大池	同　柏崎在大池村	井上　鉦市
上富	同　（本人名ゐしやぶりより所縁）三郷村上富	前島　萬吉

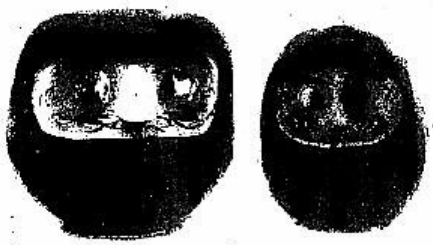
越ヶ谷の田舍雛　作者を詳らかにしないが幕末の頃迄は節機付の愛すべき素朴な豆雛が作られたと傳へられる。所謂越味家の垂涎の品である。



達磨

本川（女）　巣	八王子二組	達磨ヶ谷二組　小澤町
	箱根ヶ崎二組（一尺二寸）	

【多摩系の達磨に就いて】　安政の中期、武藏勝樂寺村（現在の埼玉縣入間郡山口村勝樂寺）殆んど東京府との境に當る二友さんといふ天才肌の男があり、兎角惡事が過ぎたので、郷村から所拂ひを喰ふに至つた。當時は狂氣なもので、隣村三ケ島村堀ノ内まで逃れて、そこの名主の庇護を受け、徒然なるまゝに達磨の木型を刻んだ。茲に始めて達磨の肌は產みつけられた譯けで、これこそは多摩達磨の濫觴と傳へられるものである。名主もその隱れたる技能と、眞摯なる製作態度とに動かされ、再び勝樂寺村への歸參を叶へさせ、友さんはこれを機として勝樂寺村に工房を設けて、大々的に達磨の製作に沒頭して悉く迎へられ、勤なからぬ產を成すに至つたが、如何なる運命かその息の代に至つて、嫁殺しの大罪を犯し、再び所拂ひとなつて永久に郷村を追はるゝの非運を見た。その裔は今荒川沖に相當の門戸を張つて現存するが、遂に達磨とは完全に緣を絶つて了つてゐる。友さんの達磨は血緣に繼ぎ、門弟關係にその脈を傳へたのであつたが、三ケ島村の名主方には今も友さん作の達磨二個が現存し、年々盆巷をした爲め腰かけても潰れない程堅くなつてゐるさうである。之より推して構彫は勿論、型も當日の面影を遺してゐない事と思ふ。如何に天才友さんと雖も起上達磨の形式を創案して他と符合する譯けがなく、問題は友さんが三ケ島村に於て始めて刻んだ達磨本型の依つて來る處であるが、往昔、まくり達磨と稱し、上州豐岡から天秤棒で擔いで行商に來たものを見た記憶



小川　達磨（一尺四寸三分）　砂川　達磨

鴻ノ巣の張子　由緒ある往時は知らず、現在では煙物に主力が注がれ、張子の製作は稀である。

〔蓮田〕蓮田、越ヶ谷いづれにも見られぬ、原始的な拙劣なものであつて、だらしの無いものと云へばそれ迄であるが、この瓜姫形張子こそは着目すべき品ではあるまいか。作者自身は「俺の家が達磨の元祖で蓮田はうちの弟子だ」と豪語してゐるさうだが、達磨原は蓮でも元祖と唱へ、鴻ノ巣張子の沿革の古さと削ひ或ひは瓦版から刷が出る類で、蓮田の直系については疑問の種にも一線の裂みを蹴いておき度いと思ふ。外に女達磨も含つては張つたさうである。いづれも賣物に出す程は張つてゐないが鴻ノ巣の市には少し許り持出すといふ話だ。

〔面〕面の製作は近時迄へては居るが、僅かに天狗、狐、おかめ、等を際物として出し、最近迄虎、犬、の幾り程もやつたさうである。

製作者　鴻ノ巣町　太刀屋

鴻ノ巣の高藤太刀　高藤太刀は江戸に於ける豪勢な先玩、端午の節句の男性的象徴であるが、その構想も亦非凡なものがあり龍虎相搏つ壮麗な密雲を柄から鞘に跨らせるなど昔のものは遜つてゐる、大は六尺に及ぶものさへあつたが、何分江戸時代のしろもので、今日の社會意識から生るべきものでない。瑞大正の大震災で東京のものは殆らず烏有に歸したが、鴻ノ巣のものは尚幾分稀存してゐるであらう。

鴻ノ巣高藤太刀（三尺七寸）

鴻ノ巣の羽子板　胡粉地に美人など描きなぐつた土俗的なものが今だにちよい〳〵作られて、所澤の様な田舎へ稀には姿を現す様であるが拙劣の範圍を出てゐない。

鴻ノ巣の高瓶　東京の高より尚遙かに稚拙で、吹き出し度くなる様なユーモラスなものである。

櫻井の達磨　達磨は關東、關東は櫻井で、全く高橋大師の作る櫻井の達磨は張子達磨での覇王である。洗練し盡され

た起上達磨の様式化として最早一歩も進めぬ感迄完成されたものと云ひ得る。殊に三尺の大物は均整が異常であつて抜群の名作であるが、二尺以下その王者振は稍々稀薄となつてゐる。

高橋の初代八太郎は幕末の頃隠居して始めて達磨を張つたといふが、之れに先だつて同村岡久里のだる吉と呼ぶ男が達磨を作つた口碑が殘る處より推して、これこそ今日殷賑を極めてゐる越ヶ谷系の源流をなすものと見なくてはなるまい。唯このだる吉がヒントを得た對象を、先達磨同に置くか鴻ノ巣におくかの問題であるが、所詮その二つの埒外には出ないものである。高橋家は彌栄四代を閲して當主五代目大藏に至つてゐるが、その三代目定次郎の初期迄は張子人形數種を作つたと傳へられる。白眼の中心地越ヶ谷にあり作る高橋の目に依れば明治四十年頃迄は全部黒目を用ひ周囲に白い輪郭を残したといふのは、いさゝか意外の感がある。女達磨（おかめ）も亦、全國東の女達磨中最も洗練されたものである。高橋の組張は川崎大師と柴又帝釋天とであるが、他に達磨市としては、僅かに野田、福島、吉川、越ヶ谷等へ出すに過ぎない。

製作者　南埼玉郡櫻井村岡久里　高橋　大藏

越山の達磨、其他　越ヶ谷系の作者が二十餘ヶ所に及び枚數に頗ふに至つたのは最近の數年に於ける進展で明治二十年の頃には前掲櫻井の高橋と越山の達磨との兩者を數へるに過ぎなかつたといふから、達磨の由緒は高橋に次ぐものとして挙げなくてはならない。他はいづれもこの二家の系をひく、門弟廻城の分派で、作風も一眼通ずるものがあり、東京の多摩系とは一見區別明瞭である。達磨の達磨は亦高橋のそれに似たものであるが、引締りがなく明らかに遜色がある。賣物の地盤は所新井大師であつて、首振虎、獅子舞、面踊、酒樽おかめ等をも併せ作るが、虎は四肢の張つたのを特色とし、以前は十字模様の瑞を描いて非凡な様式化を見せてゐた。

櫻井達磨（二尺一寸）
（頭部を除く胴部は計り胴三尺と呼ぶ）

製作者　南埼玉郡大袋村袋山　東新蔵之助

浮谷の達磨、其他　岩槻

が形態上の唯一のヒントを與へ、又少年時代近隣の雛屋へ製作の手傳ひに行つたのが摸彫の素養を與へたのであつた。即ち、多摩系遠磨の間接の系は明らかに豊岡からひいたものに外ならない。唯この「豊岡のまくら遠磨」が、途上越ヶ谷系の直、だる吉なる者に何等かのヒントを與へはしなかつたらうか？　又更にまくら遠磨は開久里遠磨であつて、櫻井村開久里のだる吉の作を指すのではないか、との疑念も浮び得るが、開久里の初代高橋は稍々後代に當り、だる吉の年代は不明だが恐らくは當時多摩地到る程の能率は無かつたものに相異ないから、結局傳へられる通り豊岡として頗しの外ない。現在の多摩遠磨は友さんの門弟の分派と、後年殿ヶ谷村岸に師を持たずして突然創業した伊勢屋の分系との二つに發され、更らに神奈川縣下の遠磨はこの伊勢屋の分系に當るものである。その系統を圖示すれば、

- 三ヶ島（出雲間外一行、いづれも今は遠磨廢絶）（別系）
- 殿ヶ谷（山崎……貸主　山崎平五郎）
- 友さん（山口村熊野寺）
- 村山・岸（小川……貸主　小川由五郎）
- 沙川（村野鎌次郎……貸主　村野喜市郎）
- 小川（姉の入婿先　相三元傳門）
- 村山・岸（伊勢屋系）……貸主　豊田徳次郎
- 箱根ヶ崎（内野金次郎）
- 石畑
- 三ツ木（福田徳五郎の伊勢屋の弟……
- 四之宮（姉の入婿先　水島）
- 川奈辺
- 鳥木（笹井）

殿ヶ谷の遠磨　扁平南瓜の如くにて稍々特色あり。殊に鑿を被込んだ補修ヒダ様といふ狀を多く作つて多摩の市から川越までも持出すのは此一人の親鄰で、「手の届けるやうな旦那はハテ儀持だんべえ」などと實に奇想天外な事を思つてゐる愛すべき爺さんである。

製作者　西多摩郡殿ヶ谷村　山崎平五郎

岸の遠磨、その他　〔小川由五郎の傳聞〕自分では俺の家が古いと威張りながら、新進氣鋭の勃興者伊勢屋の勢力に壓落されて作品も能率も微々たるものである。今日友さんの直系として殘るのは右二者のみになつた。

製作者　北多摩郡村山村岸　小川由五郎

〔伊勢屋の遠磨、其他〕伊勢屋の先代は師に就く事なく、同村の先輩小川家の親子からヒントを得て、全く獨創的に一家をなしたのであつて「俺は遠磨班なんぞいやだ、生きてる内に型を殘すんだ。」といふので、型の新作ばかりに苦頭してゐたといふが、これは約七十年ばかり前の事であ

おもちやごよみ

一月

一日　東京　深川八幡（矢守）
同　五條天神（鬼）
同　埼玉　川越氷川神社（鬼）
愛知　岡崎德川天神（鬼）平常も賣つ
一日―七日　東京　隅田川七福神詣り（寶船、七福神）
一日―三日　滋賀　坂本日吉神社（護摩堂）
福岡　住吉神社（笑物市）
二日　東京　浅草寺遠磨市
石川　金澤初賣出し（傳說平、八幡祭土手）
靜岡　藤枝遠磨市
三日　同　久能遠磨市
茨城　大花橋村安樂寺（遠磨網具）
四日　福岡　消防出初式（鬼）

五日―九日　愛知　名古屋御宮寺大遠磨（鬼面）
七日　群馬　豊岡遠磨寺遠磨市
大阪　七福神詣り（七福神土産）
福岡　太宰府天滿宮（鬼・鬼面、鬼ずく遠磨）
東京　消防出初式（鬼、鬼子、鬼日）
八日　長野　國分寺八日祭（遠磨市）
九日　群馬　前橋遠磨市
十日　京都　恵方神社十日戎（傳說物いろ〳〵）
大阪　今宮戎神社（同）十日戎はいづれも前後三日間
福川戎神社（鯛）
同　兵庫　四宮戎神社（鯛）
福岡　福岡戎神社（鯛）
同　若松戎神社（同）
東京　五月市遠磨市
靜岡　笠井町鬼音遠磨市
十一日　栃木　宇都宮遠磨市

おもちやごやちもお

十二日　東京　青梅遠磨市
十三日　栃木　鹿沼遠磨市（新暦六十三日）
靜岡　東益津遠磨市
十六日　東京　立川普濟寺遠磨市
十七日、靜岡　久能山東照宮遠磨市
廿四日、廿五日　東京　亀戸天神（鬼、鬼面、鬼祝）
廿五日　大阪　櫻井天滿宮（鬼、鬼祝）
廿八日　東京　高輪不動遠磨市
靜岡　秋葉神社遠磨市
晦日　埼玉　鴻ノ巣遠磨市
同五日　愛知　熱田神社初戎（傳說ものいろ〳〵）
同七日　大阪　道明寺天神（鬼）
岩手　山内遠師（鬼民藝帖）
同八日　靜岡　鈴川里沙門天遠磨市
同十日　同　蒲原金刀比羅宮遠磨市
同十二月、十三日　栃木　荒尾四山靜神社遠磨市（鬼面）
晦十五日　福島　福島羽黒山神社（まさる）
茨城　村松虎寅藏堂（鳥目鬼、寶船）
埼玉　比企狭日吉神社（水鳥）
靜岡　藤枝清水觀音遠磨市
同十七日　愛知　四觀音初詣、龍泉寺（笛鬼）
同十八日　同　笠日寺（狐太鼓）
同　同　鶴神寺（古馬）
同　同　柴又帝釋天（矢守）
同廿一日　東京　位土原の市（鬼面）
同廿八日　宮崎　美江寺噴祭（土鬼、鼠）
同三十日　岐阜　初早子　大阪　木津大國主神社（傳說ものい）
初　同　大森坊鼻沙門堂（寶鈴、寶符）
初庚申　福岡　薬師堂田港神社（鯛）
（毎月）
廿一日　東京　西巣鴨大師（住吉町、遠磨其他）
廿五日　東京　東寺（牛車、米鯛）
東京　北野天神（牛車、米鯛）

二月

一日 埼玉 大宮氷川神社（逆鉾）
同 岩槻久伊豆神社（逆鉾）
同 指扇秋葉神社（逆鉾）
同 平方氷川神社（逆鉾）
三日 埼玉 川越喜多院（逆鉾）
同 石戸大師堂（逆鉾）
節分 愛知 尾張四観音のもの（節分）
同 尾張宮神社（鬼追祭）
同 瀧神社（鬼追祭）
同 国府宮八幡（鬼追）
山梨 甲府遠隣
京都 市内各地（鬼追）
同 壬生寺（節分・豆）
同 山科毘沙門天（鬼面）
同 御所八幡（吉祥）
同 梨木神社（鬼追）中止
節分 大阪 大阪坊島沙門堂（豆撒、豆花）
奈良 春日神社（鬼追）
十日 埼玉 岩槻金刀比羅宮（逆鉾）
十四日、十五日 愛知 瑞穂神明東祭（鬼面、天狗面、提灯、薙刀）
十五日 静岡 三保御穂神社（逆鉾）
廿五日 東京 五日市（逆鉾）
廿七日 同 府中大國魂神社（逆鉾）
廿八日 群馬 富岡（逆鉾）
同 東京 八王子（逆鉾）
同 千葉 千葉（逆鉾）
埼玉 所沢（逆鉾）
毎月一日ノ 熊本 熊本市の市（観音、米搗車、鬼子車、獅子舞）
同一日——二十日 人吉市 赤鬼、鬼子車（逆鉾）
同 同 鹿児島郡本郷村（逆鉾）
同八日 長野 諏訪本郷村（逆鉾）

廿五日 宮城 唐桑御崎神社（逆鉾、獅子舞、風祭）
同廿四日 愛知 名古屋御穂天神（鬼）
同廿五日 同 岩津芭蕉天神（鬼）
同 和歌山 和歌祭（鬼刀、花傘）
愛知 熱田神社（宵宮）
初午より七日間 宮城 若宮竹駒神社（米搗、獅子）
初午及二の午 三重 松阪興寺山観音（獅子舞）
午の日 東京 王子風市

三月

一日 東京 立川雛市
埼玉 飯能雛市
群馬 中條雛市
同 桐生田雛市
二日 東京 青梅雛市
埼玉 坂戸雛市
群馬 安中雛市
二日 群馬 藤川雛市
三日 東京 深大寺雛市
埼玉 所沢雛市
新潟 浦佐押合祭（前夜）
十三日 福岡 恵方多賀社（後夜祭）
十五日 同 吉井八幡（鬼祭）
廿四日 埼玉 羽生雛市
廿五日 同 加須雛市
廿六日 同 岩槻雛市
同 栗橋雛市
同 嵯峨雛市
同 浦和雛市
廿七日 同 志木雛市
同 上尾雛市
同 鴻巣雛市
同 越ヶ谷雛市
同 蓮田雛市
同 蕨雛市
廿七日、廿八日

廿八日 埼玉 久喜雛市
同 原市雛市
同 千葉 野田雛市
廿九日 埼玉 足利雛市
同 鴻ノ巣雛市
同 結城雛市
同 與野雛市
卅日 同 大宮雛市
同 桶川雛市
卅一日 同 松山雛市
毎三日 宮城 仙台木下雛節（雛流、雛人形、ぼんぼり）
愛知 熱田尾張光明寺（花）
同十日 鹿児島 国分八幡稚祭（鉄砲、花、雅楽、獅子舞）
同十三日 茨城 社松原宮（宮司舞、雅楽）
同十八日 宮城 三國神社（逆鉾）

四月

一日 東京 田無雛市、雛市
埼玉 岩槻雛市
同 越ヶ谷雛市
同 吉川雛市、雛市
同 巌雛市
同 見玉雛市
同 本庄雛市
同 志木雛市
二日 同 幸手雛市
同 鶴ヶ谷雛市
同 富浦雛市
八日 佐賀 鹿島祐徳院（天蓋）
十日、十一日 愛知 小坂井荒足神社（宵宮、風流）
十五日——十七日 愛知 名古屋東照宮大祭（山車）
十九日 埼玉 二本木雛市
上旬より 京都 壬生寺火念仏狂言（宵宮、宵）

日本郷土玩具
昭和六年四月二十日 印刷
昭和六年四月二十五日 発行
定価 八圓
著作者 武井武雄
東京市麻布区霞町一〇二一
発行者 岡崎雄宣
東京市麻布区霞町一〇二一
印刷者 岡崎雄宣
東京市牛込区矢来町三二
印刷所 牛込印刷株式会社
東京市牛込区矢来町三二
発行所 金星堂
東京市神田区神保町三丁目二十一番地
電話九段四〇六八番
振替口座三二八八番

越ヶ谷達磨の眉と鬚

高橋大藏氏描く

七轉八起越ヶ谷達磨

▽七月の東京例會は越ヶ谷達磨の生産地へ大擧訪問だ。淺草雷門の東武電車正面階段下へと集合する所謂遠出である。之が花柳界の衆なら遠出鮨に野暮つたい風委で、鼻の下の長い娯親類筋を待合はすのだが、吾々ではいつも乍らの素野暮揃ひで、映えぬこと夥しいテ

△梅雨シーズンではあるが、天候に惠まれて降りもせず照りもせぬ梅雨日和だ。中には洋傘を聊か荷厄介にした用意周到な老人もあつた。越ヶ谷ではあるが、二つ先きの「大袋」で下車するのだと切符賣場前で增永君の東道振りも鮮やかだ。越ヶ谷でもてるのは、一行中では有坂會長と增永君だけであるのは聊か心細いが、青田の戰ぎ荒川の長江、綠樹飛び交ふ武藏平野は爽快な氣分を漂はせて一行を迎へて呉れた。

▽大袋驛の名所案内には、米、麥桃、梅などの特産物がある。如何にも驛の埒近く蓊蒼たる灌木が葉の色にそれらしい堵列である。田甫傳ひに土地の說明懇ろな增永東道君は少々不安を覺えてか、一足先へ駈け去つた。家を突止めて前觸れもし、迎ひに引つ返すつもりらしい、有坂會長は第二の東道を引受け、藪叢に添ふて街道へ導く遙かに增永君のせかせかした後委が見へたが、何處やらへ消失せた

▽地勢肥沃の地、路面平坦に閑寂な舊街道は野趣を存してゐる。有坂會長は此處だ／＼と左側の門へ這入る。一行も續いて緣近くへ一列に五人男の割科白でも始めさうな顏付きだが、肝腎な增永君が裏道傳ひに我々を迎ひに行つたとやら、更に呼び戻しの人が走ると云ふ賑やかさ、おあとからお先きへ涼しい西向の緣側に一同座を占め乳放れ頃の可愛らしい子猫も一行の目を慰めて呉れた。

▽門内廣濶で、蓊蒼と茂る珊瑚樹林を背景に、棚に並んだ盆栽の美事さ、更に手入れの行屆いた大小の百樹も氣持がよく、如何にも舊家である印象を受入れた。今、我我の並んだ緣先の中庭は梅の老樹龍の如く枝をさし交はし、その他の立木を育くんで居る。苔蒸した土の色も嬉しく、垣越しに見上げるやうな榎などの老樹には雀の轉が賑やかだ。さだめし歡迎の辭を述べて居るのであらう。有坂會長は「アレは何と云ふ鳥でせう」「雀ですよ」「ア、さうか」と幽邃境で耳にする雀の鳴聲も奇鳥に聞へるのは不思議だ。眞實不思議なのはカッコウ鳥の耳近かに啼くのである。增永君も加はり何代前かに使用した達磨の木型を鑑賞しつつ座敷へ主客圓を描いてかしこまる。お茶に咽喉を潤し草加煎餅に眼の色を變へた一同は、豫備知識として質問の矢が放たれる。此家の主人公高橋大藏君初め、生産者側は熱心に之れに應答して和やか氣分を醸出した。

▽張子の木型は輕くて早く乾燥し

型に狂びが出ず木割れせぬことを條件として、桐に選定してあるのである。張子紙（もとの砂糖袋に使用した紙の精製せぬもの）を水貼二枚、日本紙（反古紙）を一枚貼りとする。紙の水分は桐と日本紙とへ吸收されて乾燥し、木型に面した部分は型から自然に剝がれる。之を刀で背部を割きて型から放し、刀を入れた部分、即ち割れ目を數ヶ所利目を丈夫な紙で塞ぎ更に日本紙二枚を上張りとし、敷（シキ）（尻土）を取りつけて、乾いた頃胡粉を塗り辨慶（藁苞）へ指して乾燥し色彩を施すのである。要するに紙張は下張二枚、中貼一枚、上張二枚と云ふ五枚張である。敷は田甫の土で型に依つて大小幾種類を作り置き取りつけるので、土に布目のあるのは土型が布を着せてあるからであり、尻の中央に穴のあるのは辨慶へ指して乾かす必要上から用意してあるのである。▽軈て半里も先から態々取寄せて下すつた古利根川（中川流域）の鰻と、高橋君の令閨が手料理の新鮮な畑のものに舌鼓を打つて壺飯を濟ませ、一息入れて座談會に移つた。生産者側六名の内、高橋大藏、中村勇太郎（イサタロウ）、松崎武雄、松崎仙吉、萩原七五郎の五君は達磨專門で、松崎柳之助君は俗に型物師と云つて張子人形製作者で首振虎など得意である。東京亀戸では同君から仕入れてゐることを耳にした。野狐禪が先年亀戸へ行つた時追及したら「實は鴻巣の馬へ亀戸の天神を乘せて居ます」と自白した。鴻巣とか越ヶ谷仕入へ亀戸の色彩を施し、亀戸人形で御座いなどは余り香ばしくないと思ふ。

（小山）お暑い所を御參集下さつて有難う御座いました。本日は越ヶ谷達磨の生産地訪問と云ふので生産者の方々にも御出席を願つて座談會を開くことになりました。先づ有坂會長から話題の御提供を願ふことにします。

（有坂）越ヶ谷達磨の實地調査を試みたのはもう二十年近くなりますから、こゝまで來たのは玩具人の中で恐らく私が最初であつたかも判りません。それだけ高橋さんとは古い馴染になります。その馴染深い土地で、古い懐かしい皆樣に集つて頂いたことを感謝しますけふはこちらからも遠慮なくお尋ねしますが、皆樣も亦忌憚のない意見をお述べ願ひたいと思ひます先づ、高橋さんから越ヶ谷達磨の發祥と高橋家の代々についてお話下さい。

（高橋）高橋家の初代は八太郎で此處―櫻井村―から小半道ある船渡の産で明治初年に歿してゐます生前此處に移住しました。二代は八藏と云つて翁の描法が自慢でした。三代定次郎は八藏の次男で一時横濱へ移りましたが長男が死歿した爲め實家に戻つて家を繼ぎました。四代重藏は養子で、五代が自分と云ふことになります。

（有坂）越ヶ谷達磨が高橋家に依つて船渡から移植されたが、船渡で達磨をつくられた動機はどう解されますか、今でこそ各地との交渉はラクですけれど、當時の船渡なり間久里なりは殆ど都會に接觸のない土地で、さうした所に突然達磨がつくられるやうになつたとは考へられません、例へば、他地方でつくられた達磨を見たとか、でなければ達磨の生産者が移住して來たとか……

（高橋）初代が達磨を創作した動機が傳はつて居らず、越ヶ谷に八太郎以前に生産されたと云ふ話は耳にしてゐますが、形跡はありませぬ。

（有坂）だる吉のことですね。此傳說は越ヶ谷達磨の發祥を理由づける何物かはあります。

（田中）要するに、高橋家に依つて越ヶ谷達磨が聲價をあげたのでその以前からあつたかの如く宣傳すると云ふ手もあると思ふ。

（有坂）越ヶ谷達磨の隆盛期はいつでしたか。

（高橋）日清戰爭後、即ち明治四十年頃で、八藏の晩年に隆盛の機運を得たと云ふ譯です。

（有坂）販路はどうです。

（高橋）自分の製品は川崎の大師へ出してゐます。これは余談ですが、前方、店先へ置くと味の素工場の空氣に觸れて褪色するので、此頃は中へ入れるやうになりました。

F.

同じやうに製作される達磨でもそれぞれ特色があり、高橋家は川崎、松崎武雄君は父祖三代宍守、中村[illegible]君のは西新井誰のは何處と稍一定してゐるので、從つて競爭もない、土地に依り歡迎されるもの、不向きなものと中々一樣には行かぬさうで、自然販路が偏倚するのであるさうな。萩原七五郎老人から次のやうな話も出た—

（萩原）自分は次男に生れ、十四歳の時上州の人達に伴はれて達磨の荷を擔ぎ古河を經て白河方面へ行つたのが商ひに出た初めでした以來四十年間、宇都宮へ出荷してゐます。

（有坂）萩原さんが四十年前に白河へ出荷したと云ふ事實は、當時の越ケ谷達磨が点晴されてゐた證憑になつて面白いと思ひます。白河は点晴した達磨が本來の土地ですから其處へ出荷する以上、現在のやうに白眼でなかつたことは歴然としてゐます。この話一つで白眼の形式が生れたのはそれから以後だと云ふことが判ります。

（增永）今日では、關東一帶、西は靜岡、北は白河邊まで目無ですが、白河から先き東北地方と、靜岡から先きは眼入りです。

（高橋）白眼の儘神棚へ上げ願ひ事を祈り、願が叶つたら眼を入れると云ふのが關東の慣はしになつて居ります。

（有坂）もと〳〵兩眼を入れた達磨が本當ですが、現在の關東の慣習は商人の販賣的手段から出たものとしても、これは巧い思ひつきです。

（萩原）硝子玉を眼にして見ましたが、硝子は墨を彈くので、ツノマタへ胡粉を交ぜて、眼の玉を描き丸く切りとれば玉丈け殘ると云ふ工夫をしたものでした。

（有坂）越ケ谷達磨の用途は。

（高橋）生糸の生産地でないから招德的に商賣繁昌を願ふと云ふことになつてゐます。

（有坂）年産額はどの位です。

（高橋）生産者約三十軒で、一切小賣をしません。一軒五六十萬個をつくり、年産額一萬圓以上に達してゐます。

（有坂）型の種類は。

（萩原）芥子—一寸三分—から圖無し—三尺—まで九種あります。一號、二號、三號、四號、五號、八號、十號、十二號、二十四號ですが、生産者に依つて多少の相違があります。

（有坂）達磨にはまだ公定價がありませんが、生産者として公定價の制定を必要としませんか。

（高橋）公定價はきめて貰ひたいと思つてはゐますが……

（有坂）いづれ組合の協定はありませうが、だからと云つて全部の市場で越ケ谷ものばかりが賣られるとはきまつてゐません。大宮のやうに豊岡ものと桔抗する場合などは、豊岡の協定價格がこちらより安かつたら越ケ谷が壓倒されるのは知れきつてゐますので、恐らく皆樣も公定價の制定は必要に迫られてゐると思ひます。何故今まで民玩に公定價がきまらぬかと云ふ理由は、皆樣が安易な所にばかり逃げてゐて迫力が足らぬからです。率直に云つたら、豊岡ものとは販賣價格の点で太刀打が出來ないから、豊岡ものゝ賣られるところばこちらから避けて了ふ、と云つた傾きがあります、さう云つた具合で折角の市場を豊岡ものゝ蹂躙にまかせて了つた例は、今云つた大宮がある筈です。安くするため故意に品質を落しては困りますが、市場の摩擦を避けるのには此際どうしても公定價が必要です。どつちにしても業者の方で盛り上つて來ない、盛り上つて來ないから公定價もきめないと、商工省の物價局は私にハツキリ云つてゐます。それはそれとして將來の計畫はどうでせう。

（高橋）海外進出を考へて居ますが、氣候風土の關係から果して成功するや否や判りませぬ。此土地でも酷暑になれば膠が溶解したりいろいろの支障もあり、年末から三月までといふ寒い期間に限られてゐる次第ですから

（小山）非常に參考になりました有難う御座います。

で座談會を閉ぢ雜談に入り、製品を譲り受ける者あり、お土産まで貰ひ歸まで見送られて歸路に就い

昭和十三年五月十七日第三種郵便物認可
昭和十七年七月廿五日印刷納本
昭和十七年八月一日發行

編輯兼發行者　有坂與太郎
東京市品川區南品川三ノ一五一七

印刷者　今井角次郎
東京市荒川區大井立會町三〇

印刷所　今井精巧堂
東京市荒川區大井立會町三〇

發行所　新龍社
東京市品川區南品川三ノ一五一七
電話品川三二一一　出版文化協會會員

日本民族玩具協會
東京市品川區南品川三ノ一五一七

た。要するに越ケ谷達磨は生産者の資力の堅固さと品質の佳良、雅趣豊富なことは牡丹餅大の判を押してもよく、將來とも發展の余地は確認される。只、金粉の統制等の爲めに製作上多少の手心、革新を要さずばなるまいかと考へる。

田中野狐禪筆記

越ケ谷隨想

田畑豐太郎

高橋大藏氏の家と云ふよりも屋敷と云つた方がぴつたりする、如何にも舊家らしい落着いた構へ、達磨作る家を勝手に想像してゐた私は、これが達磨を作られる家かと先づ驚かされた。

澁い座敷の床の間近く、眞赤な三尺程の大達磨が鮮やかに浮出てゐた。きちんと片着いてゐる座敷の隅に板膠が二三枚見えたり、張子の大虎、小達磨等があるのも、やつぱり普通の農家とは違ふと思はれた。

高橋組合長とは初對面だが、堂堂たる體格、溫顏に笑を浮べ、ぽつりぽつり低い聲で話される風格溫厚で勝氣を含んだ、そして何の氣兼もなく、親しくお話の出來る方だつた。他の組合員五名の方々も飾り氣のない淳朴の氣持のよい人々だつた、心からの親切が身に浸みて嬉しかつた。越ケ谷達磨の今日の隆盛も、たゞ時代の波に乘つたと云ふだけでなく、かうした製作者の人間的良さの賜と熱心な努力とによる事を信じてゐる。氣持のぴつたり揃つてゐる事も力强い事と感じた。

× × ×

達磨の鬚や眉毛を描く爲に、實に良く工夫された獨特の筆を初めて見た。先頃私が達磨の繪を描いた時、どうしても一筆であの鬚の感じが出ないので困つた。極細線から急に太くなるあれが、どう工夫しても出來なかつた。どうして描くのかとその事ばかり考へて、筆の事に氣のつかなかつたのは不覺だつた。必要と實際とから割出されたこの科學的な筆を見てつくづく感心させられた。初めは使ひにくいが慣れると面白い樣に描けてくる。

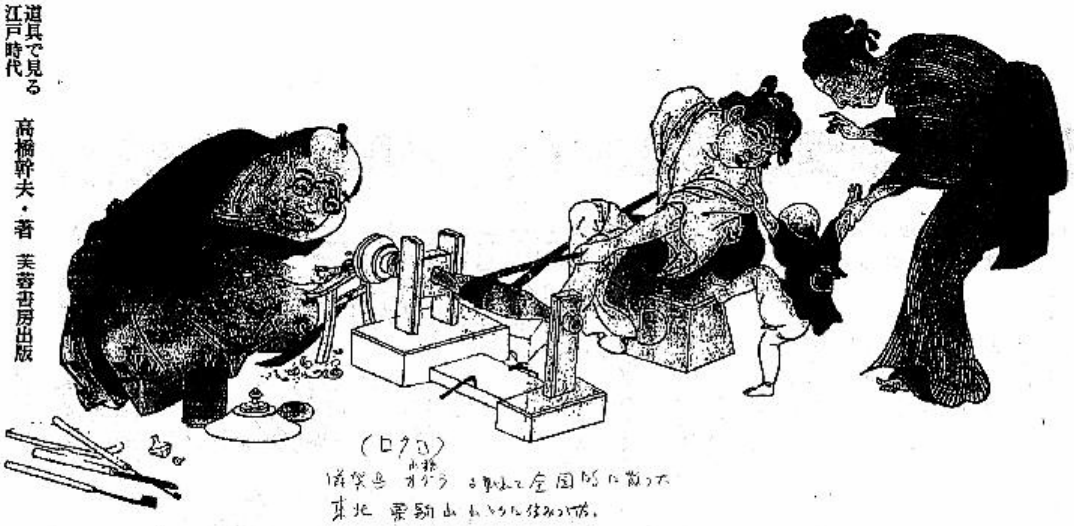
高橋氏が私の小さな寫生帳へ、眉と鬚を描いて下さつた。拜見してゐると、その筆の穗先と腹とを實によく生かして巧みに使ひ分けてゐられる。この達筆の輕妙洗練された技に魅せられて了つた。瞬く間に眉や鬚がすらすらと出來上る、部分々々の眉鬚が又家に面白く立派な圖柄になつてゐる。特にその獨特の鬚描は高橋氏の御家ものだとの事もよく頷ける。自分の仕事上得る所甚大であつた。

× × ×

私達の爲に苦心して集めて晝食に馳走して下さつた天然鰻の美味脂太りの養殖鰻ばかり食べつけてゐる私など輕くて複雜な味覺、まるで違つたものを食べてゐる樣な氣持だつた、草加せんべい、あられも忘れられぬ味だつた。驛まで皆さんで送つて來て下さつた心遣ひも、とても嬉しかつた。御家の方々に飛んだお忙しい思ひをおかけした事をお詫びする。

寫眞　越ケ谷達磨座談會實況（萩原素石氏撮）

道具で見る江戸時代　高橋幹夫・著　美蓉書房出版



小島岱山さん

達磨を目指して修行生活に入る

「これからは実践です。煩悩と執着心を徹底的に断じて達磨の禅を実践する。もうウクヌクとは暮らせない」

大い声で言い、ギョロ目が壁の達磨像を見上げた。

東京都羽村市の千軒以上の檀家を抱える寺の住職を務め、大学講師の肩書も捨てる。近いうちに、山梨県にある向嶽寺（宮本大峰・管長）の修行僧となる。独身で身軽なせいでもある。

ひと

転機は昨年八月だった。

中国河南省は嵩耳山のふもとで禅宗の始祖、達磨の墓塔と石碑を「再」発見した。いずれも再建されたものだが、初期禅宗史の見直しを迫る大きな手がかりだった。

「定説をひっくり返す学者になりたかったから、学者みようりにつきました。人間は煩悩に覆われ、座禅を組んで修行するしかないというのが達磨の教えだと分かった」

これまで、中国や日本の研究者も伝説の地と見て十分な調査はしなかった。かつては百余りの伽藍が並ぶ壮大な寺院で、地元は再発見が観光客誘致につながると期待する。

毎年四、五回は中国の仏教遺跡を訪ね歩いてきた。書物だけの研究で済まさない「歩く仏教学」は、恩師の鎌田茂雄・国際仏教学大学院大学教授からの直伝である。

達磨の碑文について論文をまとめ、中国社会科学院・世界宗教研究所に提出した。機関誌「世界宗教研究」に掲載される予定だ。学者として恩い残すことはない。

「現代人は自我にこだわり地位や名誉、カネ、権力に執着している。一切の欲を捨てて無我になれという達磨の教えが今こそ必要なんです」

禅の修行は朝四時起床。座禅と公案（禅問答）は深夜十二時に及ぶ荒行だ。

問う、達磨とはなんぞや？

ウウーン、顔を真っ赤にしてうなったあと言い放った。

「本来無一物、無一物中無尽蔵！」

文　清水　弟
写真　山口　清文

「達磨になりたい。修行して大宇宙が手に入れば死んだって本望だ」。53歳。

朝日新聞（夕刊）　2000年(平成12年)8月12日　土曜

73年前 米国から日本へ　戦争乗り越え

平和見つめる青い目の人形

アメリカ生まれ、日本育ちの「青い目の人形」が、73年の時を超えて戦争に揺れた激動の20世紀を伝えている。

戦時の激変、新聞に学ぶ ■ 郷土館に5体展示

米国から一万二千七百三十九体の青い目の人形が太平洋を渡って日本に届いたのは、一九二七年。

当時、日本人移民などをめぐって日米関係がぎくしゃくし始めていた。親日家のシドニー・ルイス・ギューリック博士が「日本人は人形が好きだから」と、全米の教会や学校などに呼びかけて人形を集め、いつまでも仲良くという思いを込めて日本に贈った。

人形は一つずつ名前が付き、「パスポート」や手紙とともに来日。全国の幼稚園や小学校に届いた。お礼として、日本からも五十八体の「答礼人形」が米国に渡った。しかし、太平洋戦争が始まると「親善の人形」は一転、「敵国の人形」として焼かれたり捨てられたりした。

■「憎い敵」

いまも残る青い目の人形と当時の新聞記事を使って、平和の学習に役立てている学校もある。

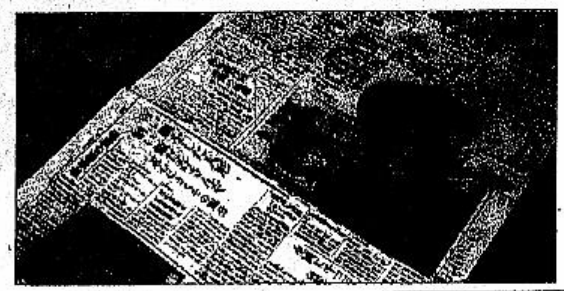
横浜市立本町小に贈られ、現存する人形「ブロッソン」。戦争末期の横浜大空襲にも生き延びて、人形は戦後三十年以上たった七九年、倉庫から見つかった。

平和の大切さを知るうえで、横浜大空襲や学校にある青い目の人形は格好の教材、と考えた八木松子教諭（四三）は、青い目の人形について、昔の二つの記事を読み比べた。

人形が届いた二七年は「可憐な少女の手で結ぶ日米親善のくさび」などの見出しで歓迎していたのに対し、戦争中の四三年の新聞では「青い眼をした人形 憎い敵だ許さんぞ　仮面の親善使」と正反対に変わっていた。

子どもたちは「人形は戦争に関係ないはずなのに」などと、わずか十六年で変わった新聞見出しの違いに驚いた。

「情報は多角的、多面的に収集して判断する」「物事の受け止め方、考え方は時代によって違う。だから何が正しいかは、大きな立場で考える」。八木教諭はそんなふうに学んで欲しいという。



❷横浜市立本町小学校に飾られている「ブロッソン」（右、レプリカ）＝横浜市中区花咲町3丁目で ❶「青い目の人形」に関する1927年（上）と43年の新聞記事

■ 特攻人形

山梨県に贈られた百二十九体のうち現存する五体が春日居町郷土館（末利光館長）で開催中の「わが町の8月15日展――お人形の夢は」に展示されている。

県内の相川小や進徳幼稚園などが所蔵する五体で、「ジェネラ」「イパァンジリーン」などの名前がついている。「処分の話がでても、焼いたり捨てたりせず、意識的に自宅や蔵に残した貴重な人形。勇気ある人の平和のシンボルとして展示している」と末館長。

ここには「特攻人形」と呼ばれる人形も陳列されている。東京の人形店が保存する一点で「替え人形」ともいわれる。戦争の末期、特攻隊員が敵機に体当たりするさい背中におぶった人形で、隊員の母親が贈物を持ち込んでつくってもらい持たせたものだという。

山梨県春日居町郷土館の人形展で、米国の人形と一緒に飾られている「特攻人形」

民俗工芸

船渡の張り子

日本の張り子人形は北は岩手県の盛岡から南は沖縄県の那覇まで全国津々浦々にわたっており、八十にもおよぶ生産地の分布が確認されているから驚きだ。県内にも岩槻、越谷、浦和などが産地であるように江戸周辺は張り子生産地だった。また、藤枝、浜松、豊橋、豊川、名古屋といった中部地方なども濃密な分布を示しており、張り子が消費地を睨んで生産されてきたことが理解できよう。そんな爆発的な人気を保持した張り子人形の技術はどこから伝来し、どの場所で生産がはじまったのであろうか。

千年の古都、京都を人々は「人形のふるさと」とか言う。あの伏見人形のイメージが人々の心をとらえたのだろう。そういえば、土人形ばかりではない。張り子も京都生まれの上方育ちだったのだ。

張り子の誕生

張り子は中国より、伝来した新しい人形づくり文化だったと言われている。いつごろ、伝来したのかは不詳だが、江戸以前であったことは間違いない。十七世紀後半に黒川道祐が著した山城国の地誌『雍州府志』には江戸初期の張り子づくりの様子が子細に報告されている。その内容は「凡ソ木ヲ以テ人形及ビ鳥獣ノ形状并に諸品ノ模範ヲ造リ、然シテ後ニ稀紙ヲ白紙ニ貼シテ、其外面ヲ張ルコト数遍、日ニ乾シテ後、縦或ハ横ニ之ヲ中分シ、小刀ヲ以テ張ル所ノ中間ヲ截リ二ツニ之ヲ別ケ、爾ル後再ビ之ヲ合セ函蓋ト為ス。是ヲ張子ト謂フ。（途中略）内ニ在ル所ノ模範ヲ出シ、別ニ紙ヲ以テ合縫ノ間ヲ補直シテ全形ト為シ、彩色ヲ其上ニ施シ、面顔衣服ノ彩ヲ分ツ。是ヲ張脱細工ト称ス。」といった具合で今日の張り子づくりと殆ど変化していないことが知れるのである。

また、『今様職人尽百人一首』に描かれているはり子師の絵柄、あるいは『江都二色』に描かれている大張子や首振りの張子虎などの絵柄からも、張り子は伝統的な郷土人形であることが理解できるかと思う。

埼玉の張り子

埼玉の張り子づくりは越谷・岩槻・春日部エリアでつくられてきた武州ダルマ、越谷の船渡と好対象の砂原の張り子、浦和の西にある五関の張り子、川越の小仙波にある大師ダルマ、秩父市別所の秩父ダルマ（仮称）などが知られている。張り子の技法は基本的に変化はないものの生産地によってその張り子の種類や表情も異なり、それぞれが魅力的である。ダルマ、張り子人形が主流だが天狗、おかめ、ひょっとこなどユーモラスな面張り子を製作してきたところもある。ただ、張り子技術の伝承は特定の地域が伝承してきたという側面もあるが、より正確には特定の家筋によって継承されてきたと考えたほうが正しいと思う。具体的には船渡の張り子が松崎家であり、浦和の五関の張り子は連見家、秩父の井上家というぐあいである。張り子の製造は木型の保持と張り子技術の保持、そして労働力の維持、さらには販売ルートの維持という４つのポイントがあるように、かりに資本が用意できても、歴史的な制約の多い産業である。それゆえ、家族内労働を基礎とした一家相伝的な仕事と解されているのである。

事実、埼玉で張り子の仕事に従事してきた家々は少なくとも３代ないし４代目という家が多い。船渡の松崎家は江戸時代からの流れだし、その他は明治以降とされているが、それでも永いあいだ稼業を守ってきたのである。

船渡の張り子

船渡の張り子は別名「亀戸張り子」とも呼ばれてきた。あのウソ替え神事でつとに知られる亀戸天神の宮笥として売られていた江戸情緒を今に伝える粋な張り子である。松崎久男氏（1926年生）が伝承するわざは松崎家六代目の自負と自信が漲ったもので、置物であっても吊し物であっても首振りが中心の張り子群である。その種類は20余種を数え、それぞれが大小の変化をつけている。彩色は青・赤・金・黄色・黒それから白といった案配で独特だ。人形の顔はとぼけた味が魅力で、ゆらりと揺れながら見せてくれる表情は粋とか洒脱といった言葉が似合う雰囲気である。

張り子の作り方

張り子づくりの工程はさほど複雑ではない。前述の『雍州府誌』の記述と大差はない。張り子はその形に応じた木型がある。①虎であれば胴と頭と尾の三つの木型が用意される。この木型に屑紙に少しばかり和紙を漉きこんだ、②グレイのボール紙（張り子紙と呼ぶ）を張りつけるところからはじまる。張り子紙は水気を含んで、柔らかい状態になっているから木型になじんでくれる。細かい部分は小さく張り子紙をちぎって張っていく。

それから、③その上を手でツノマタがまんべんなく塗られ、和紙（といっても印刷された和本の紙）が重ねられていく。和紙は張り子紙を包むように張られて、丈夫になっていくようだ。

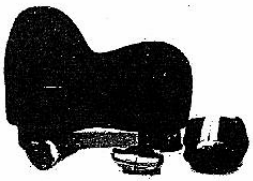
埼玉県立民俗文化センター
〒339 岩槻市加倉1058－2
TEL 048(757)8008

平成２年11月18日
（文責：斉藤　修平）

【張り子の木型資料】

牛乗り天神

▲獅子舞　▼二人連れ獅子舞



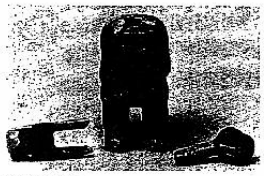
◆船渡の張り子はおもしろい◆

船渡の張り子は置き物と吊し物に分類できる。それから、張り子の底部に土のおもりや台がついたものとそうでないものという分類もできよう。また、傅や千両箱などなにかを背負う形式、虎や猪、牛などに人形が乗るといった形式もある。いずれにしても、虎に代表されるように首を振る形式が多い。風に吹かれて揺れながら見せてくれる表情はとてもよい。

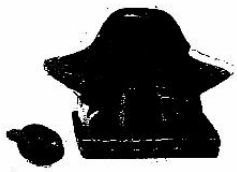
置き物には和藤内、傅背負い仲人、依背負い、千両箱背負い、恵比須、弁慶、子守、獅子舞、とうなすおかめ、とうなすねずみ、牛乗り天神、牛乗りダルマ、亀乗り金太郎、獅子舞の二人連れなどがある。一方の吊し物は一本足傘、たこ三番、鬼、藤娘、まつたけ背負いなどがある。

これらの木型の種類も多い。木型から出来上がった張り子を想像するのは楽しみだ。顔もよく見ると典型しているものがある。獅子舞二人連れの顔が一本足傘から出てくる顔と一緒だったりするが、どこから顔を出すかで雰囲気が変わるのも楽しい。

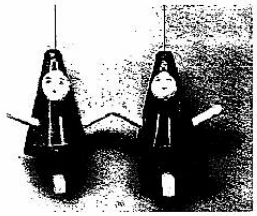
虎



▲傅背負い仲人　▼天　神

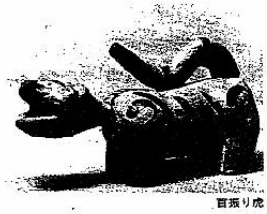


【船渡の張り子】



一本足傘

▲牛乗り天神　▼猫乗り大黒



首振り虎

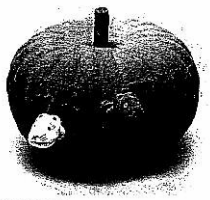
虎乗り金太郎

H-2

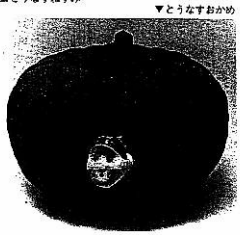
H. 2

【船渡の張り子】

和藤内



▲とうなすねずみ　▼とうなすおかめ



だるま背負い

獅子舞

【船渡の張り子】

獅子舞の二人連れ

▲鶴乗り金太郎　▼弁　慶

松たけ抱きおかめ

鬼

H-3

H. 3

郷土人形産地分布図

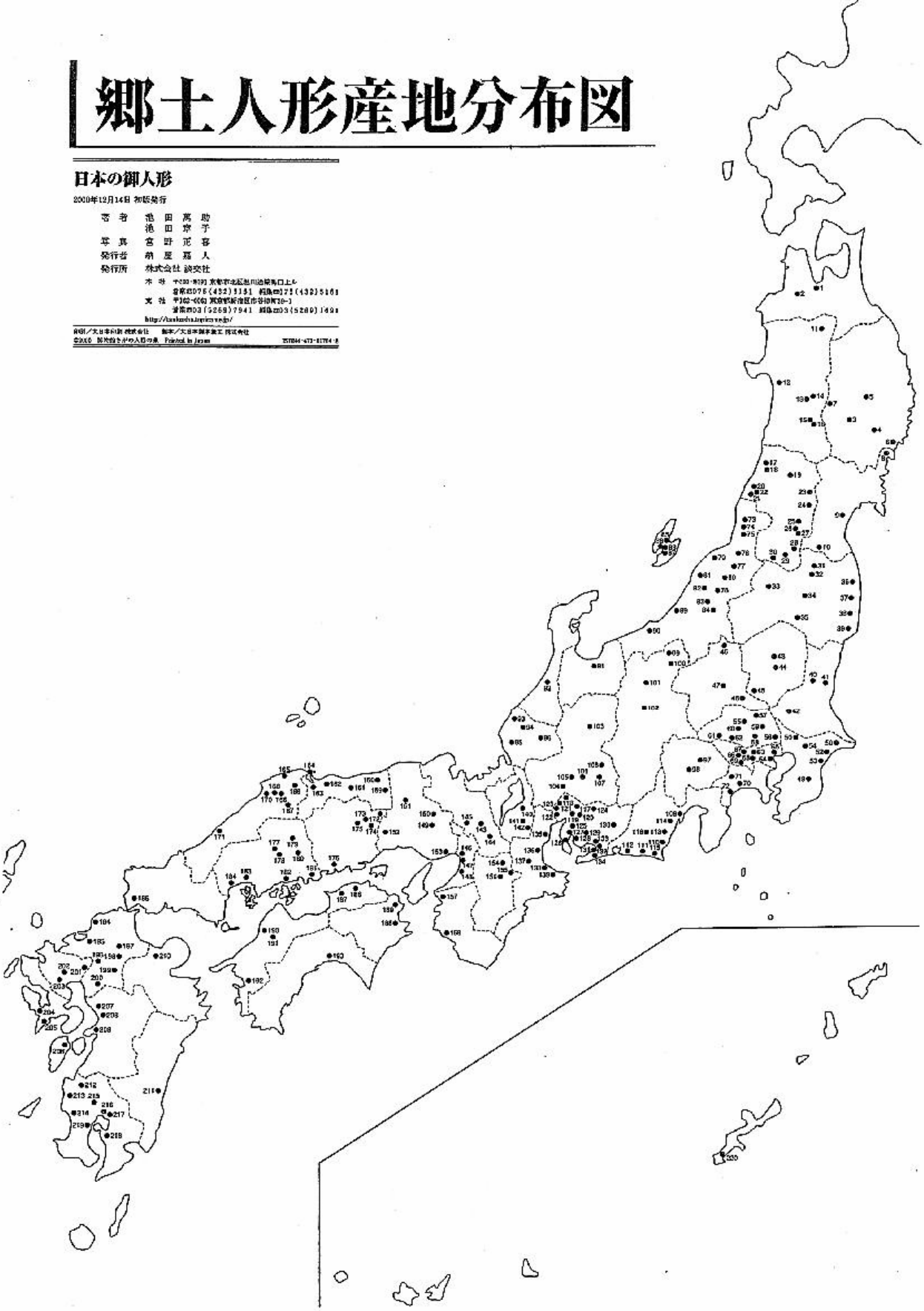
日本の御人形

2000年12月14日 初版発行

著者　池田萬助
　　池田京子
写真　宮野元容
発行者　朝屋嘉人
発行所　株式会社 淡交社

本社　〒603-8591 京都市北区紫野川端町901
　　電話075(432)5151　振替01230-5-16
支社　〒162-0061 東京都新宿区市谷柳町39-1
　　電話03(5269)7941　振替00130-6-19
http://tankosha.co.jp/

印刷／大日本印刷株式会社　製本／大日本製本紙工株式会社
©2000 萬助・京子の人形の表　Printed in Japan　ISBN4-473-01764-8



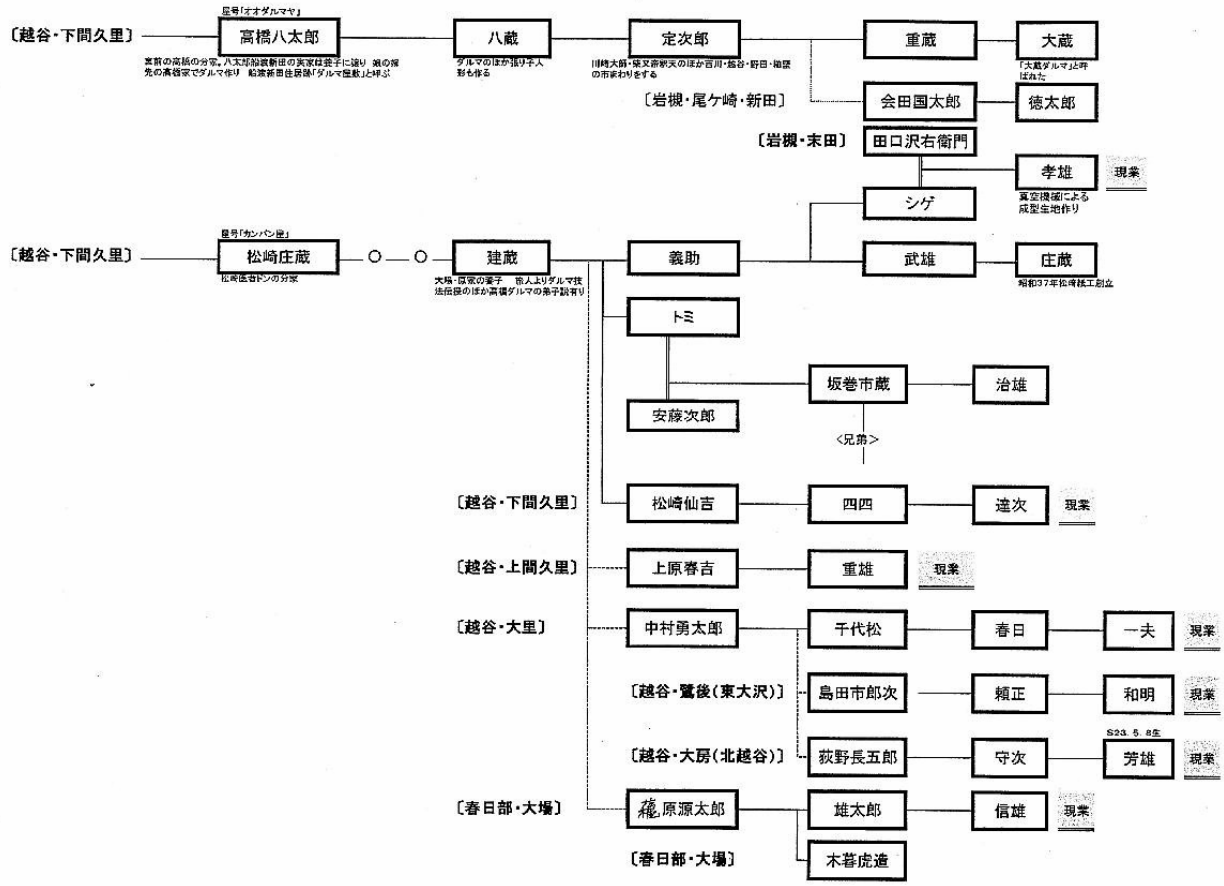
	青森県	
1	青森(青森市)	○
2	下川原(弘前市)	○
	岩手県	
3	花巻(花巻市)	○
4	遠野(遠野市附馬牛)	○
5	盛岡(盛岡市)	●
6	気仙高田(陸前高田市)	○●
7	土沢(和賀郡東和町)	○
	宮城県	
8	気仙沼(気仙沼市)	○
9	塩竈(仙台市)	○●
10	白石(白石市)	○
	秋田県	
11	小坂(鹿角郡小坂町)	○
12	八橋(秋田市)	○
13	角館(仙北郡角館町)	○
14	白岩(仙北郡角館町)	○
15	中山(横手市)	○
16	赤坂(横手市)	○
	山形県	
17	酒田(酒田市)	○
18	鶴戸川原(酒田市)	○
19	松山(鶴海郡松山町)	○
20	鶴岡(鶴岡市)	○△
21	大宝寺(鶴岡市)	○
22	庄内(鶴岡市)	●
23	猪野沢(東根市)	○
24	狐石(東根市)	○
25	渋江(山形市)	△
26	平清水(山形市)	○
27	山形(山形市)	●
28	相良(米沢市)	○
29	下小菅(米沢市)	○
30	成島(米沢市)	○
	福島県	
31	親っ子町(福島市)	○
32	瀬ノ上(福島市)	●
33	会津(会津若松市)	●△
34	三春(田村郡三春町)	●
35	白河(白河市)	●
36	富岡(双葉郡富岡町)	●
37	上岡町(双葉郡広野町)	●
38	久の浜(いわき市)	●
39	平(いわき市)	●
	茨城県	
40	水戸(水戸市)	●
41	那珂湊(那珂湊市)	●
42	宗道(結城郡千代川村)	●
	栃木県	
43	宇都宮(宇都宮市)	●
44	栃木(栃木市)	●
45	田沼(安蘇郡田沼町)	●△
	群馬県	
46	沼田(沼田市)	●
47	豊岡(高崎市)	●
48	館林(館林市)	●
	千葉県	
49	芝原(長生郡長南町)	○
50	飯岡(海上郡飯岡町)	○
51	佐原(佐原市)	●
52	八日市場(八日市場市)	●
53	宮川(匝瑳郡光町)	●
54	岩戸(印旗郡)	●
	埼玉県	
55	鴻巣(鴻巣市)	●△
56-1	越ヶ谷(越谷市)	●
56-2	桜井(越谷市)	●
56-3	袋山(越谷市)	●
56-4	大竹(越谷市)	●
56-5	大沢(越谷市)	●
56-6	砂原(越谷市)	●
56-7	蒲生(越谷市)	●
56-8	大里(越谷市)	●
56-9	大房(越谷市)	●
56-10	大道(越谷市)	●
57-1	岩槻(岩槻市)	●
57-2	浮谷(岩槻市)	●
57-3	尾崎(岩槻市)	●
58-1	五岡(浦和市)(さいたま市)	●
58-2	目進(大宮市)(さいたま市)	●
59-1	大塚(春日部市)	●
59-2	大池(春日部市)	●
60	福川(福川市)	●
61	上富(入間郡三芳町)	●
62-1	山口(所沢市)	●
62-2	三ヶ島(所沢市)	●
	東京都	
63-1	浅草(東京都台東区)	●
63-2	今戸(東京都台東区)	○
64-1	江戸(東京都中央区)	●
64-2	月島(東京都中央区)	○
65	亀戸(東京都江東区)	●
66-1	殿ヶ谷(西多摩郡瑞穂町)	●
66-2	箱根ヶ崎(西多摩郡瑞穂町)	●
66-3	石畑(西多摩郡瑞穂町)	●
67-1	岸(武蔵村山市)	●
67-2	三ツ木(武蔵村山市)	●
67-3	小川(武蔵村山市)	●
68	砂川(立川市)	●
69-1	高月(八王子市)	●
69-2	八王子(八王子市)	●
	神奈川県	
70	四ノ宮(平塚市)	●
71	厚木(厚木市)	●
72	山西(中郡二宮町)	●
	新潟県	
73	村上(岩船郡村上市)	○
74	下助渕(岩船郡神林村)	○
75	中条(北蒲原郡中条町)	○
76	乙次(北蒲原郡豊浦町)	○
77	宮ノ下(北蒲原郡笹神村)	○
78	水原(北蒲原郡水原町)	○●
79	新潟(新潟市)	○
80-1	加茂松原(加茂市)	○●
80-2	陣ヶ峰(加茂市)	○
81	横堀(蒲原郡横堀村)	○
82	三条(三条市)	○
83	今町(見附市)	○●
84	姫崎(柏崎市)	○
85	寺泊(西蒲市)	○
86	長木(佐渡郡佐和田町)	○
87	佐渡八幡(佐渡郡佐和田町)	○
88	相川(佐渡郡相川町)	○
89	柏崎(柏崎市)	○
90	高田(上越市)	○
	富山県	
91	富山(富山市)	○
	石川県	
92	金沢(金沢市)	○●△
	福井県	
93	三国(坂井郡三国町)	○
94	志比堺(吉田郡松岡町)	○
95	武生(武生市)	○
96	大野(大野市)	○
	山梨県	
97	塩山(塩山市)	○
98	甲府(甲府市)	●△
	長野県	
99	中野(中野市)	○
100	立ヶ花(中野市)	○
101	長野(長野市)	●
102	松本(松本市)	●
	岐阜県	
103	高山(高山市)	○
104-1	広見(可児市)	○
104-2	姫(可児市)	○
104-3	大森(可児市)	○
104-4	御嵩(可児郡御嵩町)	○
105-1	桑原(多治見市)	○
105-2	多治見(多治見市)	○
106-1	瑞浪(瑞浪市)	○
106-2	市原(瑞浪市)	○
106-3	小田(瑞浪市)	○
106-4	山田(瑞浪市)	○
106-5	半原(瑞浪市)	○
107-1	美濃中野(恵那市)	○
107-2	佐々良木(恵那市)	○
107-3	武並(恵那市)	○
107-4	中津川(恵那市)	○
107-5	山岡(恵那郡山岡町)	○
108-1	中津川(中津川市)	○
108-2	土岐(土岐市)	○
	静岡県	
109	静岡(静岡市)	○●△
110	焼津(焼津市)	●
111	藤枝(藤枝市)	●△
112	浜松(浜松市)	●
113	大井川(志太郡大井川町)	●
114	上新田(志太郡大井川町)	○△
115	坊ノ谷(小笠郡小笠町)	○
116	金谷(榛原郡金谷町)	○
	愛知県	
117	犬山(犬山市)	○
118	扶桑(丹羽郡扶桑町)	○
119	大口(丹羽郡大口町)	○
120	久保一色(小牧市)	○
121	古知野(江南市)	○
122	浅井(一宮市)	○
123	起(尾西市)	○
124	瀬戸(瀬戸市)	○
125	名古屋(名古屋市)	○●
126	常滑(常滑市)	○
127	乙川(半田市)	○
128-1	鯉尾(碧南市)	○
128-2	旭(碧南市)	○
128-3	大浜(碧南市)	○
128-4	新川(碧南市)	○
129	西尾(西尾市)	○△
130-1	矢作(岡崎市)	○
130-2	鴨田(岡崎市)	○
131	豊橋(豊橋市)	○●△
132	国府(豊橋市)	○
133	豊川(豊川市)	●
134	小坂井(宝飯郡小坂井町)	●
	三重県	
135	羽津(三重郡)	○
136	津(津市)	○
137	久居(久居市)	○
138	松阪(松阪市)	○
139	伊勢(伊勢市)	△
	滋賀県	
140	小幡(神崎郡五個荘町)	○
141	能登川(神崎郡能登川町)	●
142	土山(甲賀郡土山町)	○
	京都府	
143	清水(京都市東山区)	○
144	伏見(京都市伏見区)	○●
145	京都(京都市)	●△
	大阪府	
146	大阪(大阪市中央区)	●△
147	住吉(大阪市住吉区)	○
148	堺(堺市)	○
	兵庫県	
149	福知(氷上郡氷上町)	○
150	下滝(氷上郡山南町)	○
151	篠畑(柴父郡篠宮町)	○
152	早瀬(佐用郡上月町)	○
153	神戸(神戸市)	●
	奈良県	
154	帯解(奈良市)	○
155	初瀬(桜井市)	○
156	奈良(奈良市)	●
	和歌山県	
157	和歌山(和歌山市)	○
158	御坊(御坊市)	●△
	鳥取県	
159	堀越(八頭郡郡家町)	○
160	鳥取(鳥取市)	○●
161	倉吉(倉吉市)	○●
162	御来屋(西伯郡名和町)	○
163	米子(米子市)	○
164	境(境港市)	○
	島根県	
165	平浜(八束郡美保関町)	○
166	松江(松江市)	○
167-1	加茂(大原郡加茂町)	○
167-2	大竹(大原郡加茂町)	○
168	浜州(浜田郡金城町)	○
169	今市(出雲市)	○●
170	知井宮(出雲市)	○
171	長浜(浜田市)	○
	岡山県	
172	日本原(勝田郡勝北町)	○
173	旭月(勝田郡勝央町)	○
174	津山(津山市)	○
175	久米(久米郡久米町)	○
176	倉敷(倉敷市)	●
	広島県	
177	宮の峡(三次市)	○
178	十日市(三次市)	○
179	庄原(庄原市)	○
180	上下(甲奴郡上下町)	○
181	常石(沼隈郡沼隈町)	○●
182	三原(三原市)	○
183	広島(広島市)	●
184	廿日市(廿日市市)	●
	山口県	
185	茶山(下関市)	○
	香川県	
186	高松(香川県高松市)	○●△
187	多度津(仲多度郡多度津町)	●
	徳島県	
188	徳島(徳島市)	●
189-1	大津(鳴門市)	●
189-2	鳴門(鳴門市)	○
	愛媛県	
190	松山(松山市)	○●
191	野田(温泉郡重信町)	○
192	宇和島(宇和島市)	●
	高知県	
193	五台山(高知市)	○
	福岡県	
194	津屋崎(宗像郡津屋崎町)	○
195-1	博多(福岡市)	○●
195-2	今宿(福岡市)	○
196	赤坂(筑後市)	○
197	直方(直方市)	●
198	深江(糸島郡二丈町)	●
199	大川(大川市)	●
200	柳川(柳川市)	●
	佐賀県	
201	白石(三養基郡北茂安町)	○
202	尾崎(神埼郡神埼町)	○
203	弓野(武雄市)	○
	長崎県	
204	長崎(長崎市)	○●
205	古賀(長崎市)	○
	熊本県	
206	天草(本渡市)	○
207	木葉(玉名郡玉東町)	○
208	熊本(熊本市)	○●△
209	宇土(宇土市)	●
	大分県	
210	四日市(中津市)	○
	宮崎県	
211	佐土原(宮崎郡佐土原町)	○
	鹿児島県	
212	宮之城(薩摩郡宮之城町)	○
213	東郷(薩摩郡東郷町)	○
214	苗代川(日置郡東市来町)	○
215	帖佐(姶良郡姶良町)	○
216	日本山(姶良郡加治木町)	○
217	向花(国分市)	○
218	垂水(垂水市)	○
219	鹿児島(鹿児島市)	●
	沖縄県	
220	那覇(那覇市)	○●△

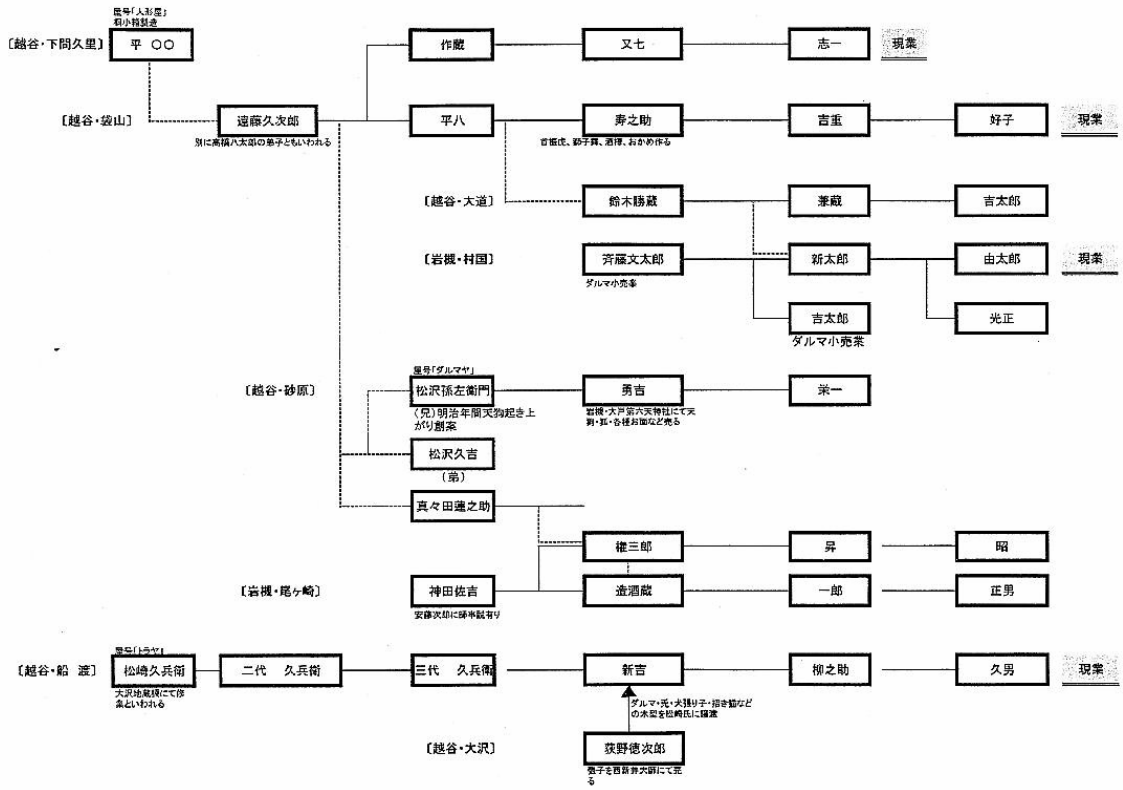
○土人形　●課　子　△綾　物

2000年 11月現在

武州張り子ダルマ・玩具の系譜

（平成12年12月12日現在）





屋号「メンコヤ」

〔越谷・大竹〕 臼倉福太郎

大福子・龍・鶴・文福茶釜・神武天皇などを羽田六寸部谷で売る

〔春日部・大場〕 萩原塁太郎

〔春日部・大場〕 七五郎

〔春日部・大場〕 中島仙太郎 — 一成

七五郎 — 四郎次 現業

〔春日部・大場〕 民十郎

民十郎 — 晃蔵 — 正雄 現業

民十郎 — 美子

〔越谷・恩間〕 斎藤初五郎

〔越谷・大道〕 鈴木勝蔵 — 兼蔵 — 吉太郎

〔岩槻・浮谷〕 仙波岩石 — 啓助 — 四十二 — 道男

ダルマ仕入れ販売業

現大宮起上り
五色ダルマ・女ダルマ製作

〔春日部・大池〕 井上綾市 — 仙太郎

〔越谷・大里〕 山田久太郎

〔越谷・大道〕 川島又蔵

〔春日部・大沼〕 五十嵐健二 『春日部張子』を新しく創出し東京方面に出荷

———実線は親族関係　　現業　は張り子業をしている

----------点線は師弟関係

「系譜」の作成には
三田村佳子　調査報告書(埼玉県立民俗文化センター　紀要　1984版)
中村一夫　調査資料(越谷市だるま組合系統図)
松崎久男（口述）
松崎庄蔵（口述）
高崎　力(聞き取り:昭36・昭44・平12)

以上を総合したもので文書記録が皆無に等しいので諸説を併記した仮の私案である
今後の調査により大幅に修正されるよう期待する

平成12年12月12日　　高崎　力

【年表】郷土玩具と雛人形（出典毎に列挙したので重複あり）

〔西暦〕	〔年号〕	
七〇〇頃	大宝年間	〔全国・埼玉県内・越谷市内の記事〕 文武天皇の第一皇子惟喬親王はロクロを発明し、ロクロ技術者が各地に散って椀やコケシなどを作ると伝えられる
一〇〇七頃	〃	源氏物語の末摘花の巻の正月八日の雛遊び 〃　須磨の御祓のヒトガタ流し　　の文節あり
一〇三四頃	〃	栄花物語にアマカツ（天児）の文節あり
一〇三七	保延三年	奈良春日宮祭礼に木彫高砂の尉姥（じょうのうば）人形を飾ったのが「奈良人形」の起り
一二一三	建保一年	〃　東北院職人歌合〃に「伏見の深草焼き」の記事あり
一五五九	永禄一年	藤原政行の下男伊助は有馬温泉（兵庫）に土着し「有馬人形筆」を創案
一五七〇	元亀元年	北条氏は箱根湯元に御細工番を設ける……「箱根細工」の起り
一五八〇頃	天正年間	箱根にいた小椋一族は別れて木地山（秋田・栗駒山）にて挽物細工を業とする
一五九二	文禄二年	古賀（長崎）の小川小三郎は京都の土師氏常陸之介より土器製作を伝授されたのが「古賀人形」の起り
一六〇〇頃	慶長年間	鵤（いかるが）　幸右衛門は伏見深草に住み土人形を作ると伝えられる……後出
	〃	藩主黒田長政に瓦職人正木宗七が人形を焼き献上したのが、「古博多人形」の始めとされる
	〃	京都嵯峨に隠棲中の角倉了次は木彫人形に胡粉を盛上げ彩色した「嵯峨人形」を創案
一六一五	元和元年	京都伏見の鵤幸右衛門は小児玩具の土人形を作り伏見稲荷参詣人に「深草焼き」として売る。この頃から「伏見人形」と呼ばれた（明治一〇年『工芸志科談』）
一六六〇頃	万治寛文頃	鴻巣デハ土偶二加フル二小雛ヲ以テシ製作家拾余戸（『玩弄物製造沿革誌』）
〃	〃	国内ではこの頃既に「張子玩具」を作っていた（黒川道祐著『雍州府志』）
一六八七	貞享四年	四月二五日鴻巣天神町生出塚神社の天神像胎内札に「奉造天神之形像京烏丸通左京法眼孫弟子仏師藤原吉園鴻巣町作之　貞享四年九月二五日」
一六九七	元禄一〇年	八月京堀川の仏師恵信は日光廟修理の帰途岩槻にて発病　岩槻藩医戸塚某の看護を受けて翌春恢復　恵信は桐粉と生麩糊とを練り固め　状物（後の桐塑のこと）を考案し彩色に成功（弘化三年『新版風土記』巻一記載）
	元禄年間	伊達藩主綱村公は京より焼物職人を仙台に招聘したのが「仙台堤人形」の始まり
	〃	京伏見人形の流れをもつ「佐土原人形」（宮崎）が作られる
一七〇五頃	宝永年間	奈良西御門町の春日絵物職岡野平右衛門（号松寿）奈良人形を創出
一七一一	正徳元年	江戸最古の吉徳人形店開業（当時俵屋傳）
一七一七頃	享保年間	京都菱屋次郎左衛門の作った雛を「次郎左衛門雛」と呼ぶ（京羽二改訂版に記載）
〃	〃	江戸日本橋十軒店にて雛市立つ
〃	〃	城崎温泉（京都府）で「麦わら細工」がみやげ物玩具となる
一七二一	〃	江戸浅草今戸の土人形が誕生する
一七三五頃	享保二〇年頃	花巻（岩手）の太田善四郎は伏見人形を伝習模作した「花巻土人形」を作る
一七四〇頃	〃	二月幕府は雛人形における奢侈禁止令を出す 一、雛八寸より上無用たるべく　近年結構なる雛これあり候間次第を逐て軽く仕るべきこと 一、同じく諸道具 ……以下略……
一七四〇	元文五年	間久里（越谷）のだる吉がダルマを作り始めたとの言伝えあり
一七六〇頃	宝暦年間	触書　雛商賈教したき者は組合へ加入すべし
		京都賀茂神社雛掌高橋忠重は柳営の余材の根株を利用して人形彫刻し神社使用の残り裂れを人形の裂れに木目込んだので「柳人形」または「木目込人形」と呼ばれた
		江戸日本橋十軒店成立（伊藤憩石説による）（『春信が宝暦より十人画』より）
		京都の次郎左衛門は江戸室町二丁目に雛店を出す
一七七〇頃	宝暦明和頃	「有職故実に基づいた公卿装束を着せた「有職雛」が出現
	明和初年	鴻巣で着付の座雛の製作が始まる　また土人形は練物（赤物）に代る
	明和頃	上州高崎の小林山達磨寺の東嶽禅師の描いたダルマ絵を豊岡村（高崎市）の農夫が木型を作り紙で張子ダルマを作って江戸へ売り出し評判となる
	明和年間	江戸で「次郎左衛門雛」が流行する
	〃	江戸上野池ノ端大槌屋が日本橋十軒店人形師原舟月に作らせたのが「古今雛」と呼ばれた 写実性・精妙・眼は玻璃玉・衣裳に金銀絲使用
一七七五頃	明和安永頃	江戸雛作者玉山は「五人雛」を作り壇飾りを華麗にし今日の雛飾り方の基となる
	〃	北尾安兵衛は京伏見で人形制作習得後摂州住吉（大阪）にて「住吉土人形」を作る
	〃	米沢藩士上杉鷹山は花沢村に製陶場創設し相良作左衛門を取締りとする ―米沢「相良人形」の起り―
	安永年中	鴻巣デハ明和安永年間二八其技稍進歩シ練物ヲ以テ士三替ヘ所謂際物ノ全部ヲ製造スル二至ル（『玩弄物製造沿革誌』）
	安永頃	越ケ谷町会田安右衛門の孫佐右衛門は江戸日本橋十軒店にて雛の製造法を修得し帰郷後自家の業とした（『雛祭考』）
	〃	神奈川大山細工の臼と杵・独楽が有名となる
一七八〇	安永九年	浅草観音雷門近くで「とんだりはねたり」が売られる
	安永天明頃	鴻巣・越谷で着付雛製造する（伊藤憩石記）
		京伏見の人形師久保田某は秋田川尻鍋子山に窯を造る　―秋田「八橋土人形」の起り
一七八四	天明年間	鳥取の張子玩具「猩々面」「キリン獅子」などが作られる
	〃	鴻巣では練人形の「鴻巣赤物」を考案し鯉金・熊金・鯛車・ダルマ・獅子頭など売り出す（鴻巣雛と人形）
一七九〇頃	寛政頃	出雲今市の高橋茂三郎土人形を作る　―出雲「今市土人形」の起り
一八〇〇頃	寛政年間	江戸上野池ノ端大槌屋の依頼により日本橋十軒店の人形師原舟月が作った雛は「古今雛」と呼ばれた……前出

一八〇八　〃　文化五年　この頃鴻巣名物は鴻巣雛・幟甲・菖蒲刀・破魔弓・羽子板・盆華

博多人形師平ノ子吉兵衛は伏見人形を模して陶芸の技法で博多人形の祖型となる「古博多人形」を作る

一八一〇　文化七年　京阪の雛遊は檀二段　江戸は檀七・八段（喜田川季荃『守貞漫稿』）

〃　文化年間　京都の面吉は「御所人形」を創案

〃　〃　〃　京都の大八郎（高橋忠重の孫）の作る人形は「大八人形」と呼ばれた

〃　〃　〃　奈良の九代目岡野松寿は能人形の諸型を取れ奈良彫の基礎を作る

〃　〃　〃　犬山（愛知）の佐藤幸太は伏見人形を模して「犬山土人形」を創始

鴻巣デハ文化年間ニ至リテ雛人形製造家漸次数ヲ増シテ二十八戸ト為リ江戸ヨリ練習ニ来ル者多ク鴻巣ノ名声関左ニ鳴ル（『鴻巣雛人形の沿革』）

一八一八頃　文化文政頃　三春（福島）城主秋田公は人形師に扶持を給して「三春張子」を作らす

〃　〃　岩槻久保宿の橋本重兵衛（重五郎説あり）は人形を作って生計を立てていた

彼は室町雛を改作し略装安価の「袴雛」を考案した

江戸雛屋仲間一番組十七人は武州雛仲間二十八軒を相手に訴訟を起す

理由―武州仲間が江戸の職人多数を引抜く

結果―江戸方の敗訴となる

一八二三　文政六年　廿日市（広島）の大津屋嘉平・廿日市の張子を創始

一八二四　文政七年　鴻巣宿商人講中連名帳のうち雛屋は十四軒

一八三三　天保四年　所沢の倉片人形雛の創業者は吉兵衛（『所沢市史』）

一八三九　天保一〇年　岩槻の雛は越ケ谷・鴻巣に比して遅か後世の創業　天保頃岩槻藩士植村平七が雛の手彫刻を初めたのに基いている（雛祭考）

一八四三　天保一四年　京都宇治の茶師上林楽只軒は茶の古木に茶摘女の根付人形を彫り「宇治人形」といわれた

一八四四　天保一五年　三月三日越ケ谷本町で質屋と古着屋をしている内藤家では女児の初節句に三組雛と諸道具を金五両一分と銭三三四文で購入し、金二両一分と銭三五〇文で酒肴と餅を振舞った

（注）三組雛とは内裏・五人囃・三人使（しとう）または三人官女のセット買いと思われるが、これ即「越ケ谷段雛」とは断言できない

一八四五　弘化二年　所沢で始めて「倉片人形」を作る　―この雛倉片人形店に保存されている

一八四九　嘉永二年　所沢の肥沼長兵衛は川越藩主より人形師名号の「東玉斉」を賜わる

この頃　所沢の〃雛忠〃の二上忠蔵が「所沢雛」を完成させたといわれる（株式会社狭山人形の小沢清作談）

一八五二　嘉永五年　岩槻町〃東玉〃の初代（漢学医）が人形を製作と伝えられる（東玉人形資料館）

一八五五頃　安政年間　高松（香川）の梶川政吉「高松張子」を作る

〃　〃　京都の二世面卯・面竹は御所人形の名人といわれた

〃　〃　上州豊岡村（高崎）の行商の〃まくり達磨〃からヒントを得て「多摩ダルマ」が作られた

一八六一　文久二年　五月江戸雛問屋壱番組年中行事浅草瓦町文七代表は武州熊谷宿百姓二名・川越宿百姓四名・大宮宿百姓一名・鴻巣宿百姓一名・北河原村百姓三名・越ケ谷宿百姓七名の雛商仲間を相手どり江戸南町奉行所松平石見守に「渡世差障」を訴える

（注）この頃の雛商を文久二年関口家文書では

熊谷宿二・川越宿三・三芳村一・大宮宿一・鴻巣宿一・行田三・越ケ谷宿十四

となっている

天保四年では

鴻巣宿雛商十四

一八六三　文久三年　鴻巣人形制作者二十八軒は鑑札を受けて商売することになる（広田屋文書）

一八六四　元治元年　文久二年の訴訟の件は双方の示談成立し議定書を交換する

右議定書連名のうち越谷関係者

吉右衛門　卯右衛門　千之助　佐右衛門　源左衛門　源次郎　銀三

清吉　八兵衛　重蔵　与市　定次郎　丈吉　四丁野村丈太郎の十四名

十一月には双方和解し一組合となる

（注）元治元年関口家文書による武州雛仲間

熊谷宿二・川越宿三・三芳村一・大宮宿一・鴻巣宿一・行田二・越ケ谷宿十三

一八六六　慶応二年　鴻巣雛仲間十一

幕末の頃　奈良彫の森川社園（文政元―明治七）は「牛若と熊坂」などを名作を残している

〃　〃　船渡（越谷）の松崎久兵衛は張子玩具・ダルマなどを作り始める

〃　〃　船渡新田（越谷）の高橋八太郎（明治三没）は下間久里（越谷）に出て本格的にダルマ製造を始める　船渡新田の旧住居は「ダルマ屋敷」といわれてきた

一八六九頃　明治初年　埼玉県下雛人形製造家は越ケ谷町二戸　岩槻町一戸　鴻巣町四〇戸　所沢町一戸　豊岡町一戸

〃　明治二年　越ケ谷町雛人形卸問屋は五～六戸（『日本雛祭考』）

一八七五　明治八年　三月　鴻巣町関口磯五郎（吉見屋本家）は京都嵯峨御所に出願し「藤原武吉」の名号と「法橋」位を与えられ　また秋元三左衛門は「矢嶋軒」の軒号を同所から許可された（注）嵯峨御所東京御用所　印

〃　明治一〇年　越ケ谷町の雛製造者七人　一時従事者四人

一八八七　明治二〇年　越ケ谷町雛人形生産　二万一三五〇個（『武蔵国郡村誌』）

一九〇二　明治三五年　下間久里（越谷）ダルマ生産年四万個　熊谷・館林方面に出荷

大久保村五関（浦和市）の連見方次郎は維新時の奉還金で張子製作を始める

「埼玉県営業便覧」に記載

所沢町　雛関係職　二軒

越ケ谷町　雛職　雛及幟問屋　雛商　際物商　六軒

大沢町　雛製造業　二軒

岩槻町　雛商　雛屋　三軒

熊谷町　玩弄物　人形商　一軒

鴻巣町　雛　玩弄物　節句品業者　三一軒

一九〇七頃　明治四〇年頃　「鴻巣雛人形の沿革」より

埼玉県下雛人形製造地は越ケ谷町二戸　岩槻町一戸　鴻巣町四〇戸

所沢町一戸　春岡町一戸にして副業その他　従事業は鴻巣町八〇戸

岩槻町五〇有戸

③

④

一九一三　大正二年　米国カルフォルニア州議会「外国人土地所有禁止法」可決
一九二三　大正一二年　関東大震災により東京の雛人形関係大打撃　植木造園業者大宮等へ移住
〃　〃　米国人ギューリック「世界児童親善会」設立
〃　〃　東京浅草小島町で雛人形の頭作り専業の「鈴幸」こと鈴木幸之助は関東大震災で現在の越谷市大沢四丁目に移住。浅草橋「吉徳」主人に奨められ芥子人形を作る
一九二四　大正一三年　米国議会排日条項を含む「新移民法」可決
〃　〃　ギューリックは子どもたちへ国際平和の夢を託し日本の雛祭に向けて人形送付を計画する
一九二六　大正一五年　ギューリックは人形送付計画の援助を渋沢栄一に求める
一九二七　昭和二年　一月四日　「青い目の人形」第一陣一六七体はサンフランシスコ出港
一月十七日　横浜入港
二月十九日　渋沢栄一「日本国際児童親善会」設置
三月三日　日本青年館で青い目の人形歓送会　以後全国の小学校・幼稚園へ配布　埼玉県へは一七八体　現越谷市域へは六体送られた
三月十四日　代表人形のミスアメリカ外五十体横浜入港　代表人形は一旦照宮に献上の後東京博物館に陳列
五月十八日　アメリカへの「答礼人形」につき大枠決定し東京百貨店協会に製作依頼　光龍斉・平田御陽・松乾斉東光らが製作
十一月十日　答礼人形の市松人形五十八体は天洋丸で横浜出港
（二月十五日　サンフランシスコ　入港）
十二月二十七日　ワシントンにて答礼人形公式歓迎会の後米国各地を巡回し各州の博物館等に納める
一九三〇　昭和五年　武井武雄著「日本郷土玩具」の中に
達磨は関東　関東は桜井で　桜井村の高橋大蔵の作る桜井達磨は張子達磨の覇王である
と絶賛している
十二月現在の埼玉県下の人形製作

	雛卸商	雛製作	頭師	生地師	練物製作者
岩槻	四	九	三〇	一	
鴻巣	一	六			四
所沢	一	二			
入間川					
越ケ谷	一	八			
大沢	八	二			
大袋	三				

一九三一　昭和六年　全国雛生産地　三十九ケ所（雛祭考）　現越谷市
埼玉県では　大沢町　着付雛
越ケ谷町　〃　〃
岩槻町　〃
鴻巣町　着付雛と練物　五十六軒（市街一覧より）
三ケ島村　押絵

⑤

一九三二　昭和七年　桜井村・大袋村のダルマ業者は二十二軒（現越谷市）
〃　〃　「正月の川崎大師と柴又帝釈天の達磨市では越谷系達磨は他の産地を圧倒へも寄せ付けない」（十二月七日付　東京日日新聞）
一九三三　昭和八年　四月日本人形研究会では「市松人形」を「やまと人形」という新名称に選定した
五月日満親善人形使節団は満州各地に六十体の「やまと人形」を贈る
一九三四　昭和九年　七月岩槻人形製造会の公告に
製造品目―三月雛人形・五月武者人形・玩具人形・金太郎・やまと人形・小道具・付属品　一切
年間生産額―壱千五百万円
一九三五　昭和一〇年　十一月埼玉県物産紹介所所務報告によれば　丸ビル地方物産陳列宣伝九月中の売却状況として
岩槻人形・玩具　一六六点
鴻巣人形・玩具　七八点
一九三六　昭和一一年　帝展第四部に人形部門が加わる
一九三八　昭和一三年　岩槻人形関係　二百数十件　従業員千名以上
一九四〇　昭和一五年　越ケ谷雛人形製作組合名簿（桐箱・造花および近辺村々を含む）
総員　五十七名　うち雛関係者四十名
雛関係製造別では

人形製造	三三名
雛頭	二名
雛手足	四名
錺	二名
雛箱	四名
その他	一二名

一九四一　昭和一七年　桜井村・大袋村のダルマ製業者　三〇軒
生産高　五万個
生産額　一万円
一九四四　昭和一九年　桜井村のダルマ屋　六軒
生産高　二万六千個
この年　東京の人形師大挙して岩槻に疎開
一九五一　昭和二六年　人形界に安売合戦起り倒産業者続出
一九五五　昭和三〇年　日本玩具の会主催「現存日本玩具番付表」では
越ケ谷達磨は東方九位・前頭では（ママ）五位にランクされている
一九七三　昭和四八年　NHK・TV「人形使節」を放映し「赤い目の人形」関心高まる
〃　越谷の張子玩具の現状調査（高崎力）
岩槻市　四軒（末田一　村国一　浮谷一　尾ケ崎一）
春日部市　四軒（大場四）
越谷市　一二軒（鷲後一　船渡一　上間久里一　下間久里二　大里一　大房一　袋山二　恩間一　大道一　砂原一）
一九七七　昭和五二年　江戸後期の「越ケ谷段雛」を山崎昭二氏（大沢・ひな源）が板橋区の西沢家および秩父に存在することを確認

⑥

一九七八　昭和五三年　前年発見の「越ケ谷段雛」の復元を山崎昭二氏等が手がける

〃　鴻巣節句用品協会（問屋・小売・職人）会員　三三軒

〃　岩槻人形関係者　人形生産高　二〇億円

従業員　五五〇軒

出荷額　三〇〇〇人　一五〇億円　これは日本一

一九八三　昭和五八年　十二月　越谷ひな人形埼玉伝統工芸品に指定

武州ダルマ生産者調査（三田村佳子）

岩槻市　四軒

春日部市　四軒

越谷市　一一軒

一九八四　昭和五九年　九月二七日　越谷だるま埼玉県伝統的手工芸品に指定

一九八五　昭和六〇年　越谷雛人形組合員　四三名

〃　関東ダルマ生産額

高崎ダルマ　五億円……日本一生産額

越谷ダルマ　八千万円

平塚ダルマ　六千万円

一九八八　昭和六三年　所沢押絵作家協会員　二三軒　日本一

三三人

〃　所沢人形協会員　三三軒　（注）人形・羽子板・節句品・玩具と所沢・狭山・入間・武蔵村山・東大和・東村山を含む

〃　「お帰りなさい笞礼人形・青い目の人形交流展」

期間　八月一二日～一七日

会場　大宮そごう

（注）この時、「ミス埼玉」は光龍斉作であることが確認

一九九三　平成五年　鴻巣人形業者（小売・頭師・手足師等）　一〇業者

卸商　九社

全従業員　三五〇人

一九九六　平成八年　四月　越谷よろいかぶと　埼玉県伝統工芸品に指定

一九九八　平成一〇年　越谷だるま組合員　九軒

越谷ひな人形組合員　三九軒

本年表および別紙資料は次の書籍および協力者により作成しました

明治三一年　山本松谷　『風俗画報』　東陽堂

昭和三年　西沢笛畝　『雛』　大雅堂

昭和六年　有坂与太郎　『日本雛祭考』　拓石堂

昭和九年　武井武雄　『日本郷土玩具』　金星堂

昭和一九年　『埼玉県文化月報　四一号』　埼玉県

昭和四二年　至文堂　『日本の美・人形』

昭和四二年　人物往来社　『江戸名所図絵』

昭和四六年　斎藤良輔　『郷土玩具辞典』　東京堂

昭和四六年　岩槻人形連合協会　『岩槻人形史』

昭和四七年　横山宗一郎　『東京の郷土玩具』　芳賀書店

昭和四九年　鴻巣節句品協会　『雛と人形』

昭和五〇年　筑摩書房　『江戸時代誌　四』

昭和五五年　読売新聞社　『雛人形と雛祭』

昭和五五年　長田　純　『町かどの芸能』　ふたば書房

昭和五六年　斎藤良輔　『郷土玩具の旅』　芸艸堂

昭和五八年　埼玉県立民俗文化センター　『武州ダルマの技術伝承』

『埼玉の地場産業』

昭和六〇年　埼玉県立民俗文化センター　『江戸木目込人形』

昭和六一年　京都書院　『人形　三』

『人形　四』

昭和六二年　平凡社　『太陽　一一　日本の郷土玩具』

平成元年　埼玉県立民俗文化センター　『埼玉の雛人形』

平成三年　横浜人形の家　『人形交流』

平成九年　竹日忠芳　『人形今昔』　北辰堂

平成一一年　高山英男　『二十世紀おもちゃ博物館』　同文書院

『所沢市史』『鴻巣市史』『岩槻市史』『越谷市史』

所沢市　倉片人形店　越谷市　砂原　松沢栄一（故人）

鴻巣市　吉見屋人形店　〃　大里　中村千代松（故人）

広田屋人形店　〃　大沢　山崎昭二（ひな源）

たちや人形店

岩槻市　東久人形館　〃　下間久里　松崎ダルマ産業

東玉人形資料館　〃　下間久里　松崎庄蔵

越生町　笛歌人形記念美術館　〃　越ケ谷　植木屋人形店

浅草橋　吉徳　埼玉県立平和資料館

浅草今戸　白井靖二　埼玉県立博物館

越谷市船渡　松崎柳之助（故人）　埼玉県立民俗文化センター

〃　船渡　松崎久男